

# CLAIR REPORT No.558

シンガポールの教員養成のシステムと  
勤務を取り巻く環境について

Clair Report No. 558 (February 25, 2025)  
(一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所



一般財団法人

**自治体国際化協会**

## 「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財政に関わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。

内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますので、御意見を賜れば幸いに存じます。

「私的使用のための複製」や「引用」等の著作権法上認められた場合を除き、本誌から複製・転載等を行いたい場合には、以下問い合わせ先までご相談ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル

(一財) 自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL: 03-5213-1722

E-Mail: [kikaku@clair.or.jp](mailto:kikaku@clair.or.jp)

## はじめに

天然資源のないシンガポールにとって、唯一の資源は人材であった。シンガポールでは、独立当初から教育に重点を置いた政策が実施されている。国の経済発展のため、教育政策は経済・産業政策に合わせて策定され、経済政策の方針が変われば、教育政策も変えられてきた。優秀な人材の確保のため、能力に基づく振り分け、徹底した能力主義による教育政策により、急速な経済発展を成し遂げてきた。

一方で、近年、エリート育成教育への批判も見受けられるようになったため、初等学校卒業試験（PSLE）の採点制度が2016年に初めて発表され、2021年からは具体的な点数で採点されることを廃止し、点数に幅を持たせ範囲内であることを示す制度へ転換することとなった。この背景には、小学校の卒業試験の成績によって中学校が振り分けられ、希望する中学校に行けるか否かで将来が決まってしまう制度が子どもに過度のストレスを与えていたことが挙げられている。

本稿では、シンガポールの教育政策のうち、実際の教育現場における教員を取り巻く環境に焦点を絞り、日本の学校や教育現場における働き方の検討に寄与する情報をまとめている。

第1章で、シンガポールの概要について、第2章で、シンガポールの教育体系の概要について示したのち、第3章では、教員になるまでの過程を示し、第4章では、教員指導環境や生徒学力についての国際調査結果を述べている。

本稿が、シンガポールの教育制度の一層の理解、また日本での政策立案の一助となれば幸いである。

一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所長

## 目 次

はじめに	1
第1章 シンガポールについて	4
第1節 シンガポールの概要	4
1 一般的事項	4
第2章 シンガポールの教育体系の概要	7
第1節 教育省	7
第2節 教育体系（幼児教育、初等教育、中等教育、大学準備教育、専門教育、大学教育、 技能教育、障害児教育）	8
1 概要	8
2 各学校の特徴	9
第3章 教員養成過程	17
第1節 幼児教員（MOE 幼稚園の場合）	17
1 幼児教員（Early Childhood Educator）の認定	17
2 MOE 幼稚園（MK：MOE Kindergarten）	17
3 MOE 幼稚園教員トレーニングプログラム	18
第2節 初等教育、中等教育、大学準備教育学校の教員	19
1 教育学大学院ディプロマプログラム	20
2 教育学ディプロマプログラム	23
3 特殊学校(Special Education (SPED) school)の教員養成過程	24
第4章 中等教育における教員の現状	26
第1節 TALIS（OECD 国際教員指導環境調査）2018 報告書の概要	26
1 TALIS の概要	26
第2節 シンガポールの調査結果（中等教育）	27
1 教員の仕事時間	27
2 シンガポールの中等教育の校長、教員、生徒の現状	29
3 教員の学級指導方法	31
4 教員と校長の職能開発	31
5 多様な能力レベルとニーズを持つ生徒の指導	33
6 教員と校長が考える教職	34
7 労働条件、他校への異動、教員減少リスク	35
8 職務上の自律性、教員間の協力、勉強会の支援	36

9 フィードバックと評価制度の最大限の活用	38
第3節 シンガポールの学力調査結果	40
1 世界各国の学力調査	41
終わりに	42
参考文献	43

## 第1章 シンガポールについて

### 第1節 シンガポールの概要

シンガポールの教育制度は、当然ながらシンガポールの歴史や地理等の文脈の中で生まれてきた。本章では、次章以下での議論の前提となる地理や文化、歴史等のシンガポールの概要のうち、特に教育制度に関連のある部分について紹介したい。

#### 1 一般的事項

##### (1) 概要情報

(表1-1) シンガポール共和国概要情報<sup>1</sup>

正式名称	シンガポール共和国 (Republic of Singapore)
面積	720 km <sup>2</sup> (東京 23 区よりやや大きい)
元首	大統領
政体	立憲共和制
議会	一院制 (選出議員数 93 (任期 5 年))
政府	首相名: ローレンス・ウォン (人民行動党 [PAP])
人口	564 万人 (うちシンガポール人・永住者は 407 万人) (2022 年)
民族	中華系 74%、マレー系 14%、インド系 9% (2022 年)
宗教	仏教、キリスト教、イスラム教、道教、ヒンズー教
言語	国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミル語。
通貨	シンガポール・ドル (S ドル)
日本との時差	-1 時間

<sup>1</sup> 外務省「シンガポール共和国 (Republic of Singapore) 基礎データ」 (2024 年 6 月 4 日) [\[https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section1\]](https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section1) (最終検索日: 2024 年 12 月 25 日) より著者作成。

## (2) 地理・気候<sup>2</sup>

赤道の北 136.8 キロにあるシンガポールは熱帯雨林気候に属する。1 年中高温で、最も暑い時期は 4 月から 7 月頃まで。11 月から 1 月までは季節風の関係で比較的しのぎやすいが、雨がやや多い。気温は 31~34℃、夜間の最低気温は 23~26℃程度。

湿度は年間を通じて高く、しばしば 100%に達する。雨はスコール性で、短時間に降り、激しい雷を伴うことが多い。

## (3) 人口・民族

イギリス領として正式に割譲を受けた 1824 年に実施された人口調査では、マレー系 6,431 名、華人系 3,317 名、インド系 756 名、その他 179 名の計 1 万 683 名に達していたという記録が残っている。このような民族構成になったのは、イギリス植民地政策下、人口の希薄なマレー地域だけでは十分な労働力をまかなうことができず、中国及びインドなどからの労働移民を流入させざるを得なかったという理由からである。

その後、窮乏する当時の中国南部から東南アジアへ向かう移民が次第に増え、1840 年、既にシンガポールにおける華人系は全体の半数を占め、20 世紀には実に 70%以上を占めるようになった<sup>3</sup>。現在の人口は総人口約 564 万人（国民 355 万人、永住権者 52 万人、定住外国人 156 万人）となっており、民族の構成としては、中国系 74.1%、マレー系 13.6%、インド系 9.0%、その他 3.3%となっている<sup>4</sup>。

## (4) 言語<sup>5</sup>

公用語は、独立時（1965 年）中華系、マレー系、インド系の三大民族間の妥協案として制定された。中国語、マレー語、タミル語は、国民の民族・文化的背景から選ばれ、英語はシンガポールが英国の植民地であったという背景と国際的地位を得ることからために選ばれた。また、諸外国とのビジネスツールとして英語が必要であったことや多民族を融和させるための一つの手段でもあった。

---

<sup>2</sup> 在シンガポール日本国大使館「シンガポールの概況」（2018 年 1 月改訂） [<https://www.sg.emb-japan.go.jp/files/%E2%98%85201801%20%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%A6%82%E6%B3%81.pdf>] p.4.（最終検索日：2024 年 12 月 12 日）

<sup>3</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クリア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022 年 3 月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] p.6.（最終検索日：2024 年 12 月 12 日）

<sup>4</sup> Singapore Department of Statistics, Population Trends 2022, [<https://www.singstat.gov.sg/-/media/files/publications/population/population2022.ashx>]（最終検索日：2024 年 12 月 12 日）

<sup>5</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クリア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022 年 3 月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] pp.7-8.（最終検索日：2024 年 12 月 12 日）

公用語とは別にマレー語が国語として制定されている。それは、シンガポールが1963年から1965年までマレーシア連邦の州の一つであったこと、独立後の経済発展にマレーシア、インドネシアなどマレー系が住む近隣諸国との調和が欠かせなかったことなど歴史的・地理的立場を反映したものとされている。しかし、国語としてのマレー語は、国歌や儀式で使用されるという役割を持っているに過ぎない。

学校において、授業は公用語のひとつである英語でなされている。しかし、シンガポールは中華系、マレー系、インド系及びその他の複数民族から構成されている多民族国家であることから、それぞれの民族の文化的な背景・アイデンティティを尊重するため、英語と同時にその母語を小学校1年生から学ばせている。

このことで、現在、国民の英語リテラシー（読解記述力）は8割を超えており、2言語以上の言語リテラシーを備えたシンガポール人の割合は、1990年調査時には45%だったのが、2000年には56%、2010年には71%、2020年には74%に増加している。

家庭で使われる言語に関して2010年と2020年を比較した場合、2010年当時は最も話されていた言語は標準中国語であったが、2020年は英語の割合は32.3%から48.3%に増加し、最も話されている言語となった。

## 第2章 シンガポールの教育体系の概要

シンガポールは国土が狭く、天然資源を持たないため、国家主導による経済発展を第一に据えた政策運営がされてきた。その結果、シンガポールは急速な経済成長を遂げ、IT、バイオ、金融、通信など様々な分野において地域ハブとしての地位を確実なものとするとともに、2022年時点で一人当たりGDPは78,115USD<sup>6</sup>に達し、世界有数の富裕国となった<sup>7</sup>。

シンガポールの成功を支える要素の1つとして、教育システムをあげることができる。多民族国家であるシンガポールは、公用語を4つ定めると同時に英語を行政・ビジネス用語とし、英語による教育を原則とした。このため、多くの国民が国際ビジネス標準となっている英語を使用することができ、小さな自国経済だけではなく、世界を相手にビジネスをすることが可能になった。また、教育課程全体を通じて実学（語学・数学・自然科学）が重視され、社会に出た後の実践・応用を前提としたものになっている。これは、企業にとっては即戦力となる人材の確保を容易にするものである<sup>8</sup>。本章では、こうしたシンガポールの教育体系の概要を紹介する。

### 第1節 教育省

シンガポールは都市国家であるため、日本のような地方自治体は存在せず、教育省（MOE: Ministry of Education）が、教育行政全般を直接、管理・管轄している。シンガポールにおける教育政策の理念は、国の未来を担う子どもたちを育てることにより国を形成することであり、子どもたちにバランスのとれた十分な教育の機会を提供し、子どもたちの可能性を開発していくこと、また、子どもたちを家族、社会及び国に対する責任を意識する国民に育てていくことを公教育の使命としている<sup>9</sup>。教育省は、国立校（Government School）及び政府補助校（Government-aided School）の管理運営に対する指揮監督や、私立学校設置等の認可等を行いながら、シンガポールの教育政策を推進している<sup>10</sup>。また、教育省が所管する歳出予算が2024年度予算では、14,752(百万\$)となっており、全体の歳出予算額である111,758(百万\$)の約13%を占め、国防（20,250（百

---

<sup>6</sup> United Nations Department of Economic and Social Affairs Statistics, Country Profile Singapore, [<https://unstats.un.org/unsd/snaama/countryprofile>]（最終検索日：2024年12月12日）

<sup>7</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022年3月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] p.194.（最終検索日：2024年12月12日）

<sup>8</sup> 同上 p.28.

<sup>9</sup> 同上 pp.260-261.

<sup>10</sup> 同上 p.261.

万\$))、保健(18,772(百万\$))の歳出予算に次ぐ規模となっている<sup>11</sup>。

第2節 教育体系(幼児教育、初等教育、中等教育、大学準備教育、専門教育、大学教育、技能教育、障害児教育)

### 1 概要

シンガポールにおける一般的な進路としては、以下の2つのコースに大別される。

- ・初等教育、中等教育、大学準備教育から大学というコース
- ・初等教育、中等教育の後、専門教育または技能教育研修所というコース

初等学校から始まる各段階で、生徒の能力に応じて選別していくための試験が行われる。まず、初等学校4年生の終わりに、学校が独自に定める基準によるテストが行われ、オリエンテーション段階(初等学校5~6年生)に向けた振り分けが行われる。

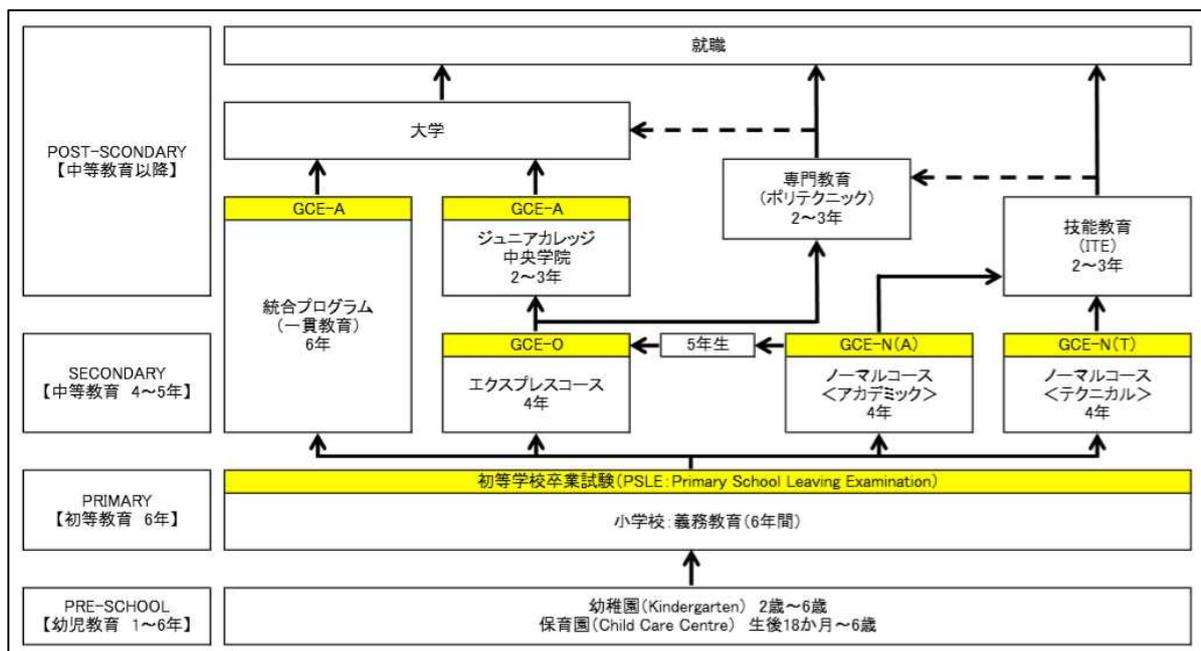
その後、初等学校卒業試験(PSLE: Primary School Leaving Examination)、中等学校卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験(GCE-O: Singapore Cambridge General Certificate of Education, Ordinary Level)、ジュニアカレッジ等卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験(GCE-A (Advanced Level))が行われ、これらの成績によって、以後の進路が決められる<sup>12</sup>。

なお、シンガポールでは、2024年度から中等教育において、この振り分け制度を大幅に変更する大改革が行われているが、本稿においては、特に記載のない限りこの改革以前の状況について述べることをあらかじめおことわりしておく。

---

<sup>11</sup> MINISTRY OF FINANCE, ANALYSIS OF REVENUE AND EXPENDITURE, [[https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024\\_analysis\\_of\\_revenue\\_and\\_expenditure.pdf](https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024_analysis_of_revenue_and_expenditure.pdf)] (最終検索日: 2024年12月25日)

<sup>12</sup> 一般財団法人自治体国際化協会(クレア)シンガポール事務所「シンガポールの政策」(2022年3月発行) [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] (最終検索日: 2024年12月12日) p.260.



(図 2 - 1) シンガポールの教育体系図 (2024 年改革前)<sup>13</sup>

各学校数は下記のとおりである。<sup>1415</sup>

- (1) Primary : 177 校(Mixed Level<sup>16</sup>導入校除く)
- (2) Secondary : 132 校 (Mixed Level 導入校除く)
- (3) Junior College/Centralised Institute : 11 校 (Mixed Level 導入校除く)
- (4) Mixed Level : 16 校
- (5) Institute of Technical Education : 3 校
- (5) Polytechnic : 5 校
- (6) Art Institution : 2 校
- (7) University : 6 校

<sup>13</sup> シンガポール教育省 WEB サイトをもとに一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所において作成したものを引用。

<sup>14</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Education Statistics Digest 2024, [\[https://www.moe.gov.sg/-/media/files/about-us/education-statistics-digest-2024.pdf\]](https://www.moe.gov.sg/-/media/files/about-us/education-statistics-digest-2024.pdf) pp.i-96. (最終検索日 : 2024 年 12 月 13 日)

<sup>15</sup> Institute of Technical Education, [\[https://www.ite.edu.sg/colleges\]](https://www.ite.edu.sg/colleges) (最終検索日 : 2024 年 12 月 13 日)

<sup>16</sup> Mixed Level(ミックスレベル)は、多層レベルの教育課程を提供する「一貫校」(初等学校及び中等学校、中等学校及びジュニアカレッジ、中等学校 3 年次以降及びジュニアカレッジ)を指す。

## 2 各学校の特徴

### (1) 幼児教育

自治体国際化フォーラム 402 号によると「幼児教育については、キンダーガーデン (kindergarten) (5～6 歳の子どもが通う) とチャイルドケアセンター (Child Care Centre) (生後 18 か月～6 歳までの子どもが通う) の 2 種類の施設がある。いずれの施設でも教育省は小学校就学前の教育を推奨しており、子どもが自信を築くこと、社会的なスキルを学ぶこと、識字能力と計算能力の基盤を身に付けることを重要な目標としている<sup>17</sup>。

シンガポール政府は小さい子どものいる家庭の就労を促すためプリスクールの数を年々増やしている。2022 年時点で政府が直接運営するキンダーガーデンは 43 あるが、2027 年には 60 に増える計画となっている。」<sup>18</sup>

### (2) 初等教育

このレベルでの教育は、1～4 年生の「基礎段階」と、5～6 年生の「オリエンテーション段階」の 2 つの段階に分けられる。初等教育においては、生徒に読み書きといった基礎学力と問題解決能力を身に付けさせることを目指し、英語、母語、数学に関する知識の習得に重点が置かれている。また、理科、芸術、道徳、社会、体育等も学び、課外活動等への参加も奨励されている<sup>19</sup>。

また 4 年生の終わりに、学校が独自に定めた基準に基づいてテストが行われ、生徒の能力、親の希望、学校の提案等により 5～6 年生のオリエンテーション段階のための振り分けが行われる。これにより、オリエンテーション段階では、英語、母語、数学、科学の 4 科目については、個々の能力に応じた授業を受ける。6 年生の終わりには初等学校卒業試験 (PSLE :Primary School Leaving Examination) を受け、その結果により、生徒は個々の能力に応じた中等教育のコースへ進学する<sup>20</sup>。

---

<sup>17</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Three MOE Kindergartens Opening in 2026 and 2027, [<https://www.moe.gov.sg/news/press-releases/20220628-three-moe-kindergartens-opening-in-2026-and-2027>] (最終検索日：2024 年 12 月 13 日)。

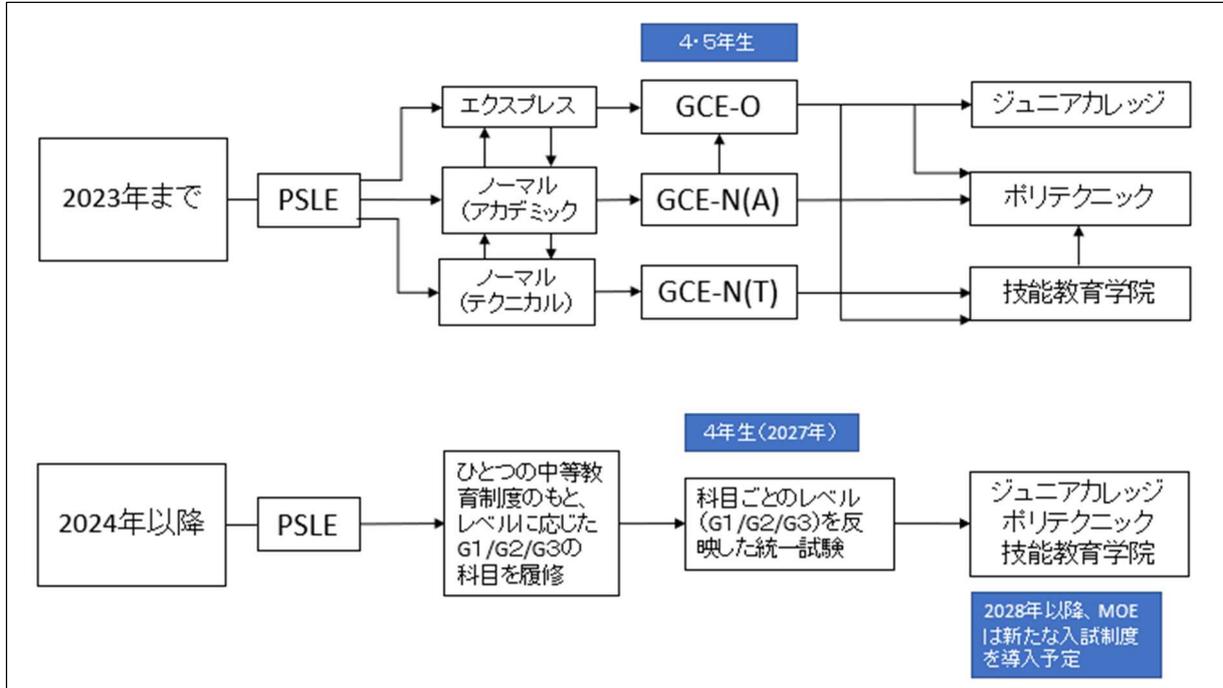
<sup>18</sup> 一般財団法人自治体国際化協会「自治体国際化フォーラム 402 号」(2023 年 3 月 25 日発行) [[https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf\\_402/04\\_sp.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_402/04_sp.pdf)] p.11. (最終検索日：2024 年 12 月 13 日)

<sup>19</sup> 一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所「シンガポールの政策」(2022 年 3 月発行) [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] p.264. (最終検索日：2024 年 12 月 13 日)

<sup>20</sup> 同上 p.265.

### (3) 中等教育

中等教育については、現在制度改革中であり 2024 年以降新たなシステムが導入される。本稿では、2023 年までの制度と 2024 年以降の制度の 2 つにわけて紹介する。



(図 2 - 2) 中等教育制度比較図<sup>21</sup> (ジュニアカレッジ、ポリテクニク、技能教育学院については本章にて説明します。)

#### ア 2023 年までの中等教育制度について

一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所「シンガポールの政策」によると、2023 年までの中等教育制度については以下のとおりである<sup>22</sup>。

中等教育では生徒の能力に応じてエクスプレス、ノーマル (アカデミック)、ノーマル (テクニカル) の 3 つのコースに分けられる。

初等学校卒業試験の結果、上位約 6 ~ 7 割がエクスプレス、約 3 割がノーマルコースに

<sup>21</sup> Ministry of Education SINGAPORE, How will the current PSLE scoring system benefit your child?, [<https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/psle/new-psle-scoring-system.html>] (最終検索日: 2024 年 12 月 13 日) 及び Ministry of Education SINGAPORE, Full Subject-Based Banding (Full SBB), [<https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/full-subject-based-banding/main.html>] (最終検索日: 2024 年 12 月 13 日) をもとに一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所において作成したものを引用。

<sup>22</sup> 一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所「シンガポールの政策」(2022 年 3 月発行) [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] pp.265-266. (最終検索日: 2024 年 12 月 13 日)

進学する。

エクスプレスコースでは、中等教育4年生で受験するシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験（GCE-O）に向けて、英語、母語、数学、科学、人文等を学習する。

ノーマルコースは、エクスプレスコースと同種の科目を学ぶノーマル(アカデミック)コースと、英語、母語、数学に加えてコンピューター応用、設計技術、ビジネススキル、小売業といった実践的な科目を履修するノーマル(テクニカル)コースに分けられ、4年生の終わりに、シンガポール・ケンブリッジ「標準」教育認定試験（GCE-N (Normal Level)）を受け、卒業する。ノーマル(アカデミック)コースで進学を希望する生徒は、5年生に進級し GCE-O レベルの試験に備えることもできる。

これらのコースのほか、生徒の様々な才能や資質を伸ばすことを目的に2種類の一貫教育課程が設けられている。

1つは、GCE-O レベルを受験しなくてもシンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験（GCE-A）や、それに相当する認定試験（IB 資格など）を受けられる「統合プログラム」（Integrated Programme）である。

このプログラムでは、中等教育と大学準備教育の両方の教育課程が提供され、生徒は、GCE-O レベルの試験に煩わされることなく、創造力やリーダーシップを養う幅広い経験を積むことが可能となっている。また、初等学校と中等学校、中等学校とジュニアカレッジ、中等学校3年次以降とジュニアカレッジというように、1つの学校で2つの教育課程を提供するミックスレベル（Mixed Level）と呼ばれる学校がある。その中には統合プログラムを取り入れている学校も含まれている。なお、統合プログラムに指定された中学校とジュニアカレッジが連携して6年間のプログラムを実施する場合とジュニアカレッジが6年間のプログラムを実施する2パターンがある。

もう1つは、特定分野に秀でた生徒のための特別独立学校（Specialised Independent School）である。初等学校卒業時に判定された生徒の能力を最大限に伸ばすため、独自のカリキュラムを組んでおり、4校が設置されている。それぞれ、スポーツ、数学と科学、芸術分野、最先端科学技術分野に特化している。

このほかにも、前述の能力別コース及び一貫教育課程には組み込まれていない、職業訓練を目的とした特別学校（Specialised School）がある。この特別学校は、手作業や実技訓練に関心がある生徒向けに設定された教育プログラムを行っており、2校が設置されている。PSLEの結果、いずれのコースにも入れない場合の中等教育の場にもなっている。

## イ 2024年からの中等教育制度について

2020年から2024年にかけて、中等教育課程で段階的に Full Subject-Based Banding

が導入される<sup>23</sup>。2024年以降エクスプレス、ノーマル（アカデミック）、ノーマル（テクニカル）というコース分けは撤廃され、初等学校卒業試験の評価に応じたレベルの科目を選択する形式となる（名称はG3/G2/G1となり、それぞれエクスプレス、ノーマル（アカデミック）、ノーマル（テクニカル）に相当）。

シンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験（GCE-O）及びシンガポール・ケンブリッジ「標準」教育認定試験（GCE-N）は2027年に共通の試験に統一され、全生徒がそれぞれの科目レベルに応じた試験を受けることとなる<sup>24</sup>。

#### （4）大学準備教育

大学準備教育段階は、日本の高校教育に該当する。中等教育卒業時にGCE-Oレベルの試験を通過した生徒の進路は大きく2つに分かれる。そのうちの1つが大学準備教育であり、2年間のジュニアカレッジ（Junior College）または3年間の中央学院（Centralised Institute）のどちらかに進学し、シンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験（GCE-A）を目指すこととなる。

大学準備教育の授業は、GCE-Aレベルの受験を前提に科学、人文等の分野別コースを設置して大学受験に必要な専門的知識を習得する。修学年数が3年間と長い中央学院の学校数は年々減少し、現在はミレニア学院1校のみとなっている<sup>25</sup>。

#### （5）専門教育

GCE-Oレベルの試験を通過した生徒のもう1つの進路である教育機関がポリテクニク（Polytechnic）であり、工業技術や商業に興味のある生徒を対象に、実業界の需要に合った実務レベルでの人材の育成を目的とする。この他、芸術分野の専門校も設置されている。

#### （6）大学教育

シンガポールにはシンガポール国立大学（NUS: National University of

---

<sup>23</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Full Subject-Based Banding (Full SBB), [<https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/full-subject-based-banding/main.html>]（最終検索日：2024年12月25日）

<sup>24</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022年3月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] p.275.（最終検索日：2024年12月13日）

<sup>25</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Education Statistics Digest 2024, [<https://www.moe.gov.sg/-/media/files/about-us/education-statistics-digest-2024.pdf>]<https://www.moe.gov.sg/about-us/publications/education-statistics-digest>] p.75.（最終検索日：2024年12月16日）

Singapore)、ナンヤン工科大学 (NTU: Nanyang Technological University)、シンガポール経営管理大学 (SMU: Singapore Management University)、シンガポール工科デザイン大学 (SUTD: Singapore University of Technology & Design)、シンガポール工科大学 (SIT : Singapore Institute of Technology)、シンガポール社会科学大学 (SUSS : Singapore University of Social Science) の6つの公設民営大学 (Autonomous University) がある。

(表 2 - 3) 各大学の概要<sup>26</sup>

大学名	概要
シンガポール国立大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法学、経営学、コンピューター学、環境デザイン、工学、医学、歯科学などで構成</li> <li>・ 海外の大学との提携に積極的 (Yale-NUS College 創立)</li> <li>・ リー・クアンユー公共政策大学院 (修士課程 4 コース、博士課程)</li> </ul>
ナンヤン工科大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学、人文芸術社会科学、工学、科学、医学などで構成</li> <li>・ 国立教育研修所 (NIE) を有す国立工科系大学</li> <li>・ 早稲田大学と技術経営の修士コース共同開設</li> </ul>
シンガポール経営大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計、経済、情報システムを含む経営管理学を専門とする</li> <li>・ 2007 年にシンガポールで 2 つ目となる法律コースが開講され、米国ペンシルベニア大学との提携により運営</li> </ul>
シンガポール技術大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学、工学、デザイン学などの分野</li> <li>・ 主にポリテクニクの卒業生を対象に高度な教育を提供</li> </ul>
シンガポール工科デザイン大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デザイン工学に関する教育・研究</li> <li>・ 2020 年 5 月には人工知能 (AI) に関する学科を新たに創設</li> </ul>

<sup>26</sup> 一般財団法人自治体国際化協会 (クレア) シンガポール事務所「シンガポールの政策」(2022 年 3 月発行) [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] pp.267-268. (最終検索日: 2024 年 12 月 16 日)

シンガポール社会科学 大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に社会人を対象に定時制の学位取得課程を提供する学校として 2005 年にシンガポール社会学院大学として設立</li> <li>・2014 年からは、ジュニアカレッジやポリテクニク卒業生を対象にした全日制の課程も提供</li> </ul>
------------------	---

このほか、2024 年には、ラサール芸術学院（LASALLE）とナンヤン芸術学院（NAFA）が提携し、シンガポール政府が支援する形で私立芸術大学のシンガポール芸術大学（UAS）が開学予定である<sup>27</sup>。

## （7）技能教育

技能教育学院（ITE: Institute of Technical Education）は、シンガポールの職業教育において大きな役割を果たしている技術専門学校である。中等学校の卒業生を対象に、幅広い分野での技術訓練と実務訓練を行い、各種の資格を取得できるようにしているほか、一般社会人を対象に、技術向上のプログラムを提供し、技術向上に関する指導や資格試験を行っている。加えて、様々な理由により学校教育を受けることができなかった勤労者を対象に、教育を受ける機会を提供している。

シンガポールにおける職業教育の中核を担う ITE については、実際に消費者に対してサービスを提供することなどを通じて、より実践的な教育を行うことを目的としている<sup>28</sup>。

## （8）その他の教育機関

### ア 障害児教育

障害児教育を行う特殊学校（Special Education (SPED) School）は 19 校ある。これらは、政府から補助金を受けた 12 の福祉団体（VWO: Voluntary Welfare Organisation）により運営され、障害の種類と状況に応じて、個々の可能性を引き出し、自立、自助、社会参加を促すための教育プログラムを提供している。なお、初等教育課程修了時に初等学校卒業試験（PSLE）に合格した生徒は、一般の生徒と同じ教育課程に進学することがで

<sup>27</sup> Ministry of Education SINGAPORE, New Private University of the Arts Singapore – Formed by Alliance Between NAFA and LASALLE – to Open in 2024, [<https://www.moe.gov.sg/news/press-releases/20220830-new-private-university-of-the-arts-singapore-formed-by-alliance-between-nafa-and-lasalle-to-open-in-2024>]（最終検索日：2024 年 12 月 16 日）

<sup>28</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022 年 3 月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] pp.268-269.（最終検索日：2024 年 12 月 16 日）

きる。現在、6つの中等学校に聴覚障害や視覚障害を持つ生徒に対応できる教員及び設備を配置している<sup>29</sup>。

### イ 教員養成機関（NIE：国立教育研修所）

シンガポール唯一の教職員養成機関、ナンヤン工科大学（NTU）の一機関である国立教育研修所（NIE）が教員養成のための専門教育やトレーニングを行っている。

教員資格認定のコースは3つあり、①大学卒業者を対象にしたコース（1年間）、②GCE-A レベル試験等の合格者又はポリテクニクの卒業者を対象にしたコース（2年間又は4年間）、③GCE-O レベル試験の合格者を対象にした教員資格認定及び芸術教育又は科学教育の学士号取得が可能なコース（4年間）が設けられている。また、教育学の修士課程・博士課程、現任教員向けの多彩な研修プログラム、学校長等向けの管理者育成研修プログラム等も提供している<sup>30</sup>。

教員養成については次章で詳しく述べることとする。

---

<sup>29</sup> 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022年3月発行） [[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)] pp.269.（最終検索日：2024年12月16日）

<sup>30</sup> 同上（最終検索日：2024年12月18日）

### 第3章 教員養成課程

#### 第1節 幼児教員（MK:MOE Kindergarten の場合）

##### 1 幼児教員（Early Childhood Educator）の認定

シンガポールで幼児教員になろうとする者は、子ども開発庁（ECDA：Early Childhood Development Agency）の認定を受けなければならない。認定カテゴリーによって、教えられる子どもの年齢層が決まる。

（表2-4）幼児教員の認定と教えられる子どもの年齢層<sup>31</sup>

認定区分	教えられる子どもの年齢層
L2	18 か月から 6 歳までの子供たち
L1	18 か月から 4 歳までの子供たち
EY2	2 か月から 3 歳までの子供たち
EY1	2 か月から 18 か月までの子供たち

幼児教員として認定されるには、各認定レベルの専門的、学歴、語学力要件を満たす必要がある。第二外国語や外国語を教えたい幼児教員は、それぞれに対応した語学力が必要となる。

##### 2 MOE 幼稚園（MK：MOE Kindergarten）<sup>32</sup>

シンガポールには、シンガポール教育省の定めるカリキュラムに沿った事業を行い教育省が運営する幼稚園（MK:MOE Kindergarten、以下 MOE 幼稚園）がある。

###### （1）MOE 幼稚園の教員になるための要件

MOE 幼稚園の教員になるためには、幼児保育・教育に関する資格である DECCE-T（Diploma in Early Childhood Care & Education-Teaching）が必要となる。取得には、シンガポール国立研修機関の国立幼児教育研修所（NIEC：National Institute of Early Childhood Development）にて、DECCE-T コースを卒業する必要がある。国立幼

<sup>31</sup> Early Childhood Development Agency, Requirements for Educator Certification, [\[https://www.ecda.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/early-childhood-educator/requirements-for-educator-certification-.pdf?sfvrsn=ee9d471b\\_3\]](https://www.ecda.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/early-childhood-educator/requirements-for-educator-certification-.pdf?sfvrsn=ee9d471b_3)（最終検索日：2024年12月18日）より著者作成。

<sup>32</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten, [\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk)（最終検索日：2024年12月18日）

児教育研修所とは、シンガポールの幼児教員にキャリアのさまざまな段階で質の高いトレーニングを提供するために教育省によって設立された国立研修機関のことである。

DECCE-T コースに入学後は、子供の安全、子供の発達、運動能力の発達など、実践中心の研修を 1,200 時間受講する必要がある。コースを無事に完了すると、国立幼児教育研修所から DECCE-T の資格が授与され、子ども開発庁により L2 認定が与えられる。

なお、MOE 幼稚園の教員になりたい者は DECCE-T を保有していることに加え、下記資質が必要とされる。

- ① 子どもたちの発達と福祉に尽力すること
- ② 好奇心を刺激し、学ぶ喜びを追求する献身的な姿勢があること
- ③ エネルギッシュな性格であること
- ④ 効果的なコミュニケーションスキルと子供たちを巻き込む能力があること
- ⑤ 次世代を育てる熱意と創造力があること
- ⑥ マルチタスクと組織化スキルに優れていること<sup>33</sup>

## (2) DECCE-T 所持者の給料と福利厚生について

シンガポール教育省によると、DECCE-T 所持者の MOE 幼稚園での初任給は 3,200 ドルから 5,200 ドルの範囲で支給される。実際に支給される給料は、関連する経験と仕事に費やした時間などが考慮される。また、医療および歯科給付の補助や、私用のための 10 日間の緊急休暇等の福利厚生も受けられる<sup>34</sup>。

## 3 MOE 幼稚園教員トレーニングプログラム

### (1) DECCE-T を持っていない場合

幼稚園で教えるために必要な幼児保育・教育に関する資格である DECCE-T を持っていない社会人転職希望者の場合でも、ポリテクニクの卒業資格保有者等を対象に MOE 幼稚園教員トレーニングプログラム(MK TTP : MOE Kindergarten Teacher Training Programme)を通じて MOE 幼稚園の教員になることができる。申請者は選考を経て、国立幼児教育研修所による DECCE-T(Conversion) [Diploma (Conversion) in Early Childhood Care & Education] 取得のための 9 カ月間 (900 時間) のトレーニングプロ

---

<sup>33</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten for untrained applicants, [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/untrained>] (最終検索日 : 2024 年 12 月 18 日)

<sup>34</sup> Ministry of Education SINGAPORE, English Medium or Mother Tongue Language (MTL) Kindergarten Teacher, [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/trained/mk-teacher>] (最終検索日 : 2024 年 12 月 18 日)

グラムを行う。MK TTP の研修プログラムを修了後、MOE 幼稚園での勤務が始まり、2 年間の就労義務を負うこととなる<sup>3536</sup>。

## (2) MK TTP 修了者の給料と福利厚生

MK TTP 後の初任給は、研修プログラムの開始時から 3,000 ドルから 4,200 ドルの範囲になる。また、研修中は、学習関連費用として 1,050 ドルの 1 回限りの補助を受けることができる。実際に給与が支給される際には、関連する経験と仕事に費やした時間などが考慮される。また、医療および歯科給付の補助や、私用のための 10 日間の緊急休暇等の福利厚生も受けられる<sup>37</sup>。

## 第 2 節 初等教育、中等教育、大学準備教育学校の教員

初等教育、中等教育、大学準備教育学校の教員になるためには、教育学大学院ディプロマ [Postgraduate Diploma in Education(PGDE)] が必要である。なお、初等教育については、教育学ディプロマ [Diploma in Education (DipEd)] を取得することでも教員として指導することが可能である。希望者の学歴に応じて 2 種類の研修プログラムが用意されている<sup>38</sup>。

(表 2 - 5) 国立教育研修所が提供する研修プログラム<sup>39</sup>

研修プログラム	教育学大学院ディプロマ Postgraduate Diploma in Education (PGDE)	教育学ディプロマ Diploma in Education (DipEd)
学歴要件	大学の学位取得者、または 現在大学の学部生	GCE-A レベル、ポリテクニク、国 際バカロレア (IB) 資格保持者

<sup>35</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten for untrained applicants, [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/untrained>] (最終検索日：2024 年 12 月 19 日)

<sup>36</sup> NATIONAL INSTITUTE OF EARLY CHILDHOOD DEVELOPMENT, Diploma (Conversion) in Early Childhood Care & Education – Teaching [DECCE-T (Conversion)] [<https://niec.edu.sg/course/diploma-conversion-in-early-childhood-care-education-teaching-decce-t-conversion/>] (最終検索日：2024 年 12 月 19 日)

<sup>37</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten for untrained applicants, [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/untrained>] (最終検索日：2024 年 12 月 19 日)

<sup>38</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in Primary and Secondary schools, Junior Colleges and Centralised Institute, [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci>] (最終検索日：2024 年 12 月 19 日)

<sup>39</sup> 同上より著者作成。

指導レベル	初等教育、中等教育、大学 準備教育	初等教育
-------	----------------------	------

## 1 教育学大学院ディプロマプログラム

教育学大学院ディプロマ (PGDE) プログラムは初等教育、中等教育、大学準備教育学校の教員になりたい学位取得者を対象としたもので、国立教育研修所が提供するフルタイムの研修プログラムである。学校の教科を教えるための知識とスキルを身につけ、シンガポールにおける教員という仕事をより深く理解することを目的としている<sup>40</sup>。

### (1) PGDE プログラムの参加要件

PGDE プログラムに参加するには、大学学位が必要である。指導科目に好ましい大学での専攻は下記のとおりである。

(表 2 - 6) 各教育機関の指導科目における大学での専攻分野<sup>41</sup>

レベル	指導科目	大学での専攻
大学準備教育	ゼネラルペーパー <sup>42</sup> (General Paper)	英語・言語学・社会科学・人文科学・リベラルアーツ・法学
	経済学	経済学
大学準備教育/ 中等教育 (Secondary)	数学	数学・統計・エンジニアリング
	生物学	生物学・ライフサイエンス・バイオサイエンス
	化学	化学・応用化学
	物理学	物理学・応用物理学・エンジニアリング (例：電気工学・土木工学・機械工学・材料工学・工学科学・航空宇宙工学)
	地理学	地理学・環境学
	歴史	歴史

<sup>40</sup> Ministry of Education SINGAPORE 「Postgraduate Diploma in Education (PGDE)」  
[<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/postgraduate-diploma>] (最終検索日：2024年12月20日)

<sup>41</sup> 同上より著者作成。

<sup>42</sup> 学生たちが現実世界の問題を分析し、個人や社会が抱える複雑な問題を理解し、情報に基づいた意思決定を行うことが求められ、効果的に自分の考えを伝えることを学ぶ科目。

中等教育 (Secondary)	英語	英語・言語学・社会科学・人文科学・リベラルアーツ・法学
	英文学	英文学
	会計原論	会計学・経営学（財務会計モジュールを含む）
	デザイン・技術	エンジニアリング・ファインアート
	栄養学・食品科学	家庭科・家族・消費者科学
	社会科教育	社会科学・人文科学・リベラルアーツ
	中国語	中国言語学・中国言語学・中国文学・中国学
	マレー語	マレー語学・マレー文学・マレー世界研究
	タミル語	タミル語学・タミル文学
中等教育 (Secondary) /初等教育 (Primary)	音楽	音楽
	美術	ファインアート・建築学・デザイン・美術史
	体育	全ての専攻
初等教育（ Primary）	英語・数学	全ての専攻 関連言語に堪能であることが必要。
	英語・科学	
	英語・社会科教育	
	数学・科学	
	中国語	
	マレー語	
	タミル語	

なお、プログラム参加者は、個人の資質や経験、知識などを考慮し総合的に評価され、どの科目にも自由に興味関心を示すことができる。指導科目はプログラム参加者の知識、興味関心、組織ニーズを考慮し、教育省により割り当てられる。

## （２）PGDE のプログラム内容

国立教育研修所の PGDE 研修プログラムは、教育学やカリキュラム研究、実習、言語、学術分野における言語使用スキルといった内容を幅広く網羅している。

PGDE プログラムには２種類あり、１つは学術科目を教えるもの、もう１つは体育（PE）を教えるものである。各プログラムはそれぞれ専門分野と期間が異なる。

(表 2-7) PGDE 及び PGDE (PE) におけるプログラム内容 <sup>43</sup>

	PGDE	PGDE (PE)
指導レベル	初等教育、中等教育、大学準備教育	初等教育、中等教育
プログラム内容	<p>以下の内容で構成される教職課程を専門的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育レベル(例：初等教育、中等教育、大学準備教育)</li> <li>・幅広い専門科目(例：英語、数学、科学)</li> </ul> <p>幅広い専門科目の中でどの科目が割り当てられるかは、必要かつ関連する内容を習得しているかどうかにより大きく左右される。</p> <p>初等教育の教員に任命された候補者は、2つの科目の指導法を習得し、科目内容と教授法のスキルを強化するための研修を受ける。</p>	<p>初等教育と中等教育の両方のレベルで体育を教えることができるように学ぶ。(初等、中等の両レベルに対するトレーニングを受けることで、学齢期を通じた成長と運動能力の発達、そしてそれらが指導と学習に与える影響を理解するのに役立つ。)</p> <p>最初の配属校は、内定通知書に記載された初等教育となる。その後、組織のニーズに応じて、中等教育に配属されることもある。</p>
期間	16 か月	2 年間
就労義務	3 年	3 年

国立教育研修所での研修は教育省から全額補助される。また、PGDE プログラムを完了すると、3年間の就労義務が課せられる。一方、国立教育研修所を卒業できなかった場合や、指導義務期間（3年間）を満了する前に教員を辞職または解雇された場合は、教育省に損害賠償金を支払う必要がある。

<sup>43</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Postgraduate Diploma in Education (PGDE), [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/postgraduate-diploma>] (最終検索日：2024年12月20日) より著者作成。

### (3) 給料と福利厚生

大学新卒者は 3,535 ドルからを受け取ることができ、PGDE プログラム修了後は更なる上積みを見込める。実際の支給は、学術トレーニングや教育に関連した自身の経験、仕事に費やした時間などによって異なる。

また、一般教育担当者(PGDE プログラム卒業時に任命される役職)となった場合、賞与、医療及び歯科に対する給付、14 日間の病気休暇、私用のための 10 日間の緊急休暇等のさまざまな特典を受けることができる<sup>44</sup>。

## 2 教育学ディプロマプログラム<sup>45</sup>

教育学ディプロマ (DipEd) プログラムは、GCE-A レベル取得者、ポリテクニク卒業者等で、初等学校で教えることを考えている人を対象とした給料付きの 2 年間のフルタイムプログラムである。

国立教育研修所が提供する研修プログラムは、関連する科目内容の知識と教育に必要なスキルを身につけることを目的としており、2 年間のトレーニングを受けた後は、初等学校で美術、音楽、体育、母語 (中国語、マレー語、タミル語) のいずれかを教えることが可能となる。

### (1) DipEd のプログラム内容

DipEd プログラムは、教育学、カリキュラム研究、主科目知識、実習、言語、学術分野における言語使用スキル、学術科目(PE DipEd のみ)等を幅広く学ぶプログラムである。

プログラム期間は 2 年間、就労義務期間は 3 年である。また、国立教育研修所での研修は教育省から全額補助される。DipEd プログラムを完了すると、小学校で 3 年間の教育義務を務めることになるが、国立教育研修所を卒業できない場合や、指導義務期間を満了する前に教員を辞職または解雇された場合は、MOE に損害賠償金を支払う必要がある。

---

<sup>44</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Postgraduate Diploma in Education (PGDE), [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/postgraduate-diploma>] (最終検索日: 2024 年 12 月 20 日)

<sup>45</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Diploma in Education (DipEd), [<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/postgraduate-diploma>] (最終検索日: 2024 年 12 月 20 日)

## (2) 給料と福利厚生

大学新卒者は、2,900 ドルからを受け取ることができ、DipEd プログラム修了後は更なる上積みを見込める。実際の支給は、自身の経験や仕事に費やした時間などによって異なる。なお、教師が同じ経験と学術トレーニングを受けている場合、指導レベルの違いによる給料の差はない。

また、DipEd プログラム修了後の初任時には、賞与や医療・歯科に対する給付、14 日間の病気休暇、私用のための 10 日間の緊急休暇等のさまざまな特典を受けることができる<sup>46</sup>。

## 3 特殊学校(Special Education (SPED) school)の教員養成過程<sup>47</sup>

特殊学校は社会福祉機関によって運営されており、政府と地域社会が資金を全額提供している。

特殊学校の教員は、より高度な支援が必要な子供に対し、個別にカスタマイズされた学習サポートを行う。こうした子供が「生活、学習、労働」のなかで個人の潜在能力を発揮できるように指導することに強い関心が求められている。

特殊学校の教員は以下のことを行う。

- ・ 家族や地域機関と協力して、これらの子供や若者をサポートするための教育と学習のデザイン等を行う。
- ・ 研修やその他の学習の機会を通じて、専門的に成長し、特殊学校教員としての技量を高める。
- ・ 関連する専門家や教師補助者と緊密に連携して、生徒に質の高い教育を提供する。

特殊学校の教員になるには、GCE- A レベル取得者、ポリテクニク卒業者、国際特別支援教育資格保有者であることなどが必要になる。(必要要件は保有している資格の種類に基づいて異なる。)

## (1) 給与と福利厚生

上記条件を満たす者は、特殊学校の教員としての訓練を受けていない教員は、特殊学校での教育を経験する必要があるが、その間の給与は、初任月給 2,720 ドルから 3,600 ド

---

<sup>46</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Diploma in Education (DipEd), [\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/diploma-education\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-ic-ci/diploma-education) (最終検索日：2024 年 12 月 23 日)

<sup>47</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in special education schools, [\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/sped-teacher?pt=Teacher\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/sped-teacher?pt=Teacher) (最終検索日：2024 年 12 月 23 日)

ルとなる。特殊教育ディプロマ（DISE : Diploma in Special Education）プログラムを無事修了すると、より高い給料を得ることができる。実際の支給は、学術訓練や教育に関連した自身の経験、仕事に費やした時間によって異なる。

なお、特殊学校の教員としての訓練を受けていない教員は、特殊学校での教育経験期間中に、学校が当該教員の適性を評価し、国立教育研究所が実施する DISE プログラムに推薦する。DISE プログラムは教育省によって全額資金提供されている。DISE プログラム中は、学校から研修手当が支給される。また、DISE プログラムを修了すると、特殊学校で3年間の就労義務に対応することになる<sup>48</sup>。

---

<sup>48</sup> Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in special education schools  
[<https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/sped-teacher>]（最終検索日：2024年12月24日）

## 第4章 中等教育における教員の現状

ここでは、TALIS（OECD 国際教員指導環境調査）2018 報告書を基に、シンガポール  
の中等教育に勤務している教員の現状について紹介する。

### 第1節 TALIS（OECD 国際教員指導環境調査）2018 報告書の概要

#### 1 TALIS の概要

TALIS（Teaching and Learning International Survey：国際教員指導環境調査）と  
は、教員及び校長を対象に、2008 年から5年ごとに、教員及び校長の勤務環境や学校の  
学習環境に焦点を当てて実施している OECD の国際調査のことである。職能開発などの  
教員の環境、学校での指導状況、教員への評価やフィードバックなどについて、国際比較  
可能なデータを収集し、教育に関する分析や教育政策の検討に資することを目的としてい  
る。今回は、最新の調査結果である TALIS2018 について見ていくこととする。以下本節  
及び次節において記載している結果等は TALIS2018 からの引用であることをおことわり  
しておく。<sup>4950</sup>

#### （1）調査方法<sup>51</sup>

調査対象者が質問紙調査（教員用/校長用）に回答(所要各 40～60 分)

#### （2）調査項目<sup>52</sup>

学級の環境、教員の仕事時間、指導実践、教員の自己効力感、職能開発、教員へのフ  
ィードバック、教員・校長のストレス 等

#### （3）参加国<sup>53</sup>

OECD 加盟国等 48 か国・地域が参加した。(前回は 34 か国・地域)具体的な国は下  
記のとおりである。

<参加国>

アルバータ（カナダ）、オーストラリア、オーストリア、ベルギー（フランドルもベルギ

---

<sup>49</sup> 文部科学省「TALIS（OECD 国際教員指導環境調査）」

[[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/data/Others/1349189.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1349189.htm)]（最終検索日：2024 年 12 月  
24 日）

<sup>50</sup> 国立教育政策研究所「OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018 報告書 vol.2 のポイント」

[<https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/tails2018-vol2.pdf>]（最終検索日：2024 年 12 月 24 日）

<sup>51</sup> 同上 p.3.

<sup>52</sup> 同上 p.3.

<sup>53</sup> 同上 p.3.

一の一部として参加)、ブラジル、ブルガリア、ブエノスアイレス(アルゼンチン)、チリ、コロンビア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、イングランド(イギリス)、エストニア、フィンランド、フランス、ジョージア、ハンガリー、アイスランド、イスラエル、イタリア、日本、カザフスタン、韓国、ラトビア、リトアニア、マルタ、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、サウジアラビア、上海(中国)、シンガポール、スロバキア、スロベニア、南アフリカ共和国、スペイン、スウェーデン、台湾、トルコ、アラブ首長国連邦、アメリカ、ベトナム

なお、下線の15か国・地域は初等教育も参加しているが、参加国が少ないことから、初等教育の参加国平均の値は示されていない。

#### (4) 調査対象者<sup>54</sup>

各国につき、本調査の代表サンプルとして200校の教員4,000人とその学校の校長を無作為抽出した。全調査項目について、約26万人の教員が、48参加国・地域の800万人を超える教員を代表して、調査に回答した。シンガポールでは、中等教育の教員3,280人と校長167人が回答した。

## 第2節 シンガポールの調査結果(中等教育)

### 1 教員の仕事時間<sup>55</sup>

シンガポールの教師の労働条件は改善されており、教員が1週間当たりにおいて仕事に従事する時間が5年前の調査結果よりも約2時間減少した。管理作業や採点に費やす時間が減少して、指導する時間が増えたためである。

また、海外の教員が週平均38.3時間勤務しているのに対し、シンガポール教員は週平均45.7時間、勤務している。

なお、仕事時間は週平均56.0時間である日本がトップとなり、続いて順にカザフスタン、アルバータ(カナダ)、イングランド(イギリス)がランクインし、シンガポールは第7位の結果となった。

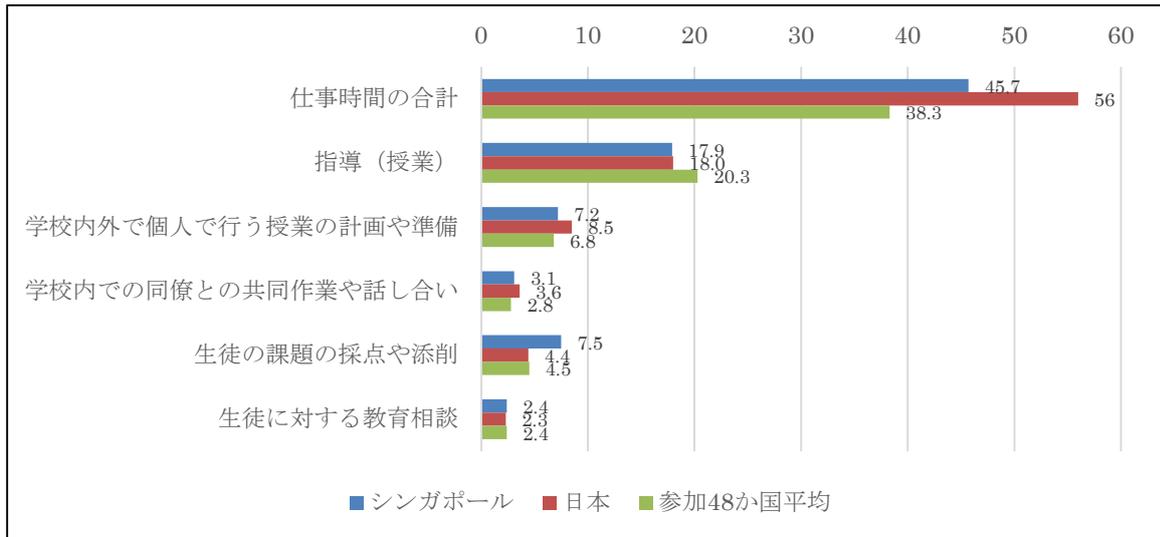
---

<sup>54</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I

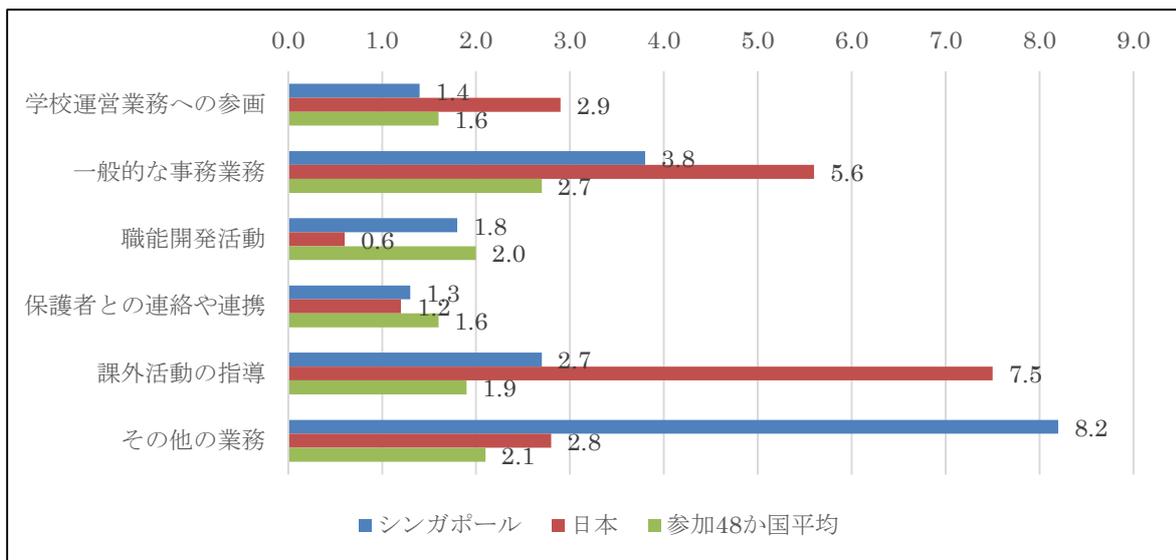
[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] p.6. (最終検索日: 2024年12月24日)

<sup>55</sup> 国立教育政策研究所「教員環境の国際比較: OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2018報告書——学び続ける教員と校長——の要約」

[[https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018\\_summary.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf)] p.6, p.11 (最終検索日: 2024年12月24日)



（図 4 - 1）直近の「通常の一週間」において、以下の仕事に従事したと教員が報告した時間数の平均（1 時間 = 60 分換算）（1）<sup>56</sup>



（図 4 - 2）直近の「通常の一週間」において、以下の仕事に従事したと教員が報告した時間数の平均（1 時間 = 60 分換算）（2）<sup>57</sup>

<sup>56</sup> 国立教育政策研究所「教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018 報告書——学び続ける教員と校長——の要約」

[[https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018\\_summary.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf)] p.11.（最終検索日：2024 年 12 月 24 日）より著者作成。

<sup>57</sup> 同上 p.12.より著者作成。

(表4-3) 各国における仕事時間が最も長い順位<sup>58</sup>

順位	国	時間	順位	国	時間
1位	日本	56.0	6位	ベトナム	46.0
2位	カザフスタン	48.8	7位	シンガポール	45.7
3位	アルバータ (カナダ)	47.0	8位	ニュージーランド	45.5
4位	イングランド (イギリス)	46.9	9位	上海 (中国)	45.3
5位	アメリカ	46.2	10位	オーストラリア	44.8

## 2 シンガポールの中等教育の校長、教員、生徒の現状<sup>59</sup>

教職が第一志望であった教員の割合はシンガポールでは71%、TALISに参加したOECD加盟国・地域では67%であった。教員になった理由については、シンガポールの教員の95%以上が、「子供の成長に影響を及ぼし、社会に貢献する機会」を主な動機として挙げた。

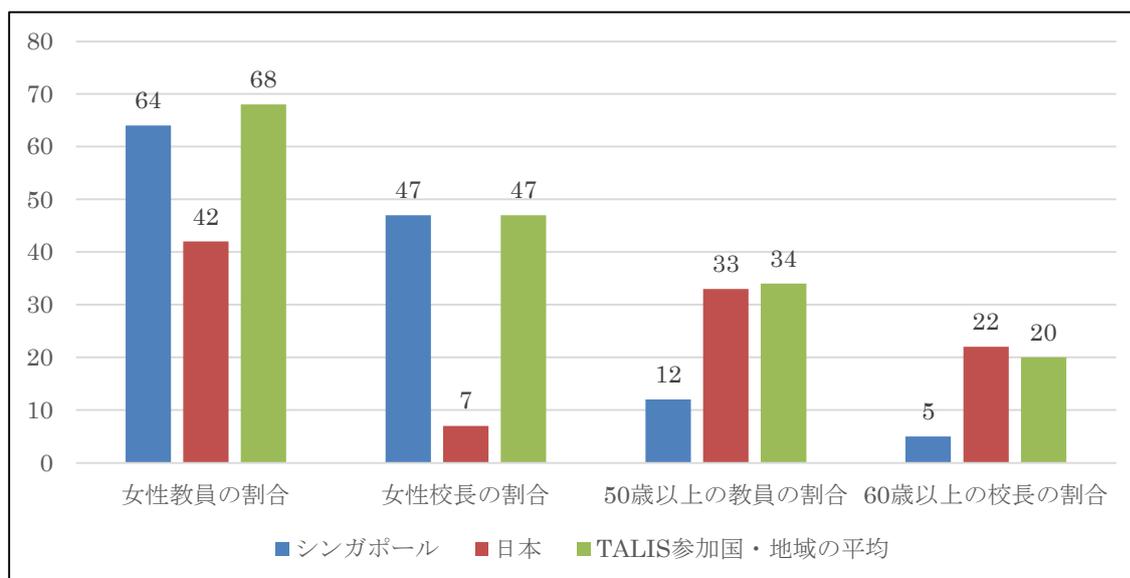
シンガポールの教員の平均年齢は38歳であり、TALISに参加したOECD加盟国・地域全体の教員の平均年齢(44歳)より低い。また、シンガポールの教員に占める50歳以上の割合は12%である(OECD平均34%)。

<sup>58</sup> 国立教育政策研究所「教員環境の国際比較：OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2018報告書——学び続ける教員と校長——の要約」

[[https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018\\_summary.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf)] p.11. (最終検索日：2024年12月24日)より著者作成。

<sup>59</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I,

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] pp.1-2. (最終検索日：2024年12月24日)



(図4-4) 教員と校長の社会人口動態と経験の状況（前期中等教育課程の教員と校長の回答結果）<sup>60</sup>

シンガポールの校長の平均年齢は50歳であり、TALISに参加したOECD加盟国・地域全体の校長の平均年齢（52歳）より低い。また、シンガポールの校長の5%が60歳以上である（OECD平均20%）。

シンガポールでは女性校長の割合は47%、女性教員の割合は64%である。これに対して、OECDの平均は、女性校長の割合が47%、女性教員の割合が68%となっている。

学級的环境については、生徒と教員との関係は総じて良好であり、「通常、生徒と教員は互いに良好な関係にある」としたシンガポールの教員は98%である。また、ごくわずかな校長の割合（4%）が、「生徒間で脅迫またはいじめの行為が常態化している」と報告している（OECD平均14%）。

シンガポールでは、移民の背景を持つ生徒が10%以上を占める学校に勤務している教員の割合は38%である（OECD平均17%）。100%の校長が、「自校の教員は、異文化の人でも多くの共通点があることを子供・若者が学ぶべきと考えている」と回答した（OECD平均95%）。

<sup>60</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I ,  
[\[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf\]](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf) pp.1-2.（最終検索日：2024年12月24日）より著者作成。

### 3 教員の学級指導方法<sup>61</sup>

シンガポールの教員の64%が、「秩序を乱す生徒を落ち着かせることがしばしばある」と回答し（OECD 平均 65%）、80%が、「新しい学習内容と過去の学習内容がどのように関連しているか説明することがしばしばある」と回答した（OECD 平均 84%）。

シンガポールで、「複雑な課題を解く際に、その手順を各自で選択するよう生徒に指示することがしばしばある」と回答した教員は36%である（OECD 平均 45%）。

通常の授業で、シンガポールの教員が授業時間のうち実際の指導・学習に費やす時間は平均74%であり、OECDの平均78%より低い。

過去5年～10年を見ると、TALIS参加国・地域の約半数で、実際の指導・学習が授業時間に占める割合が減少した。シンガポールでは、この5年間で、同割合は3ポイント増加している。

シンガポールでは、「生徒を観察し、フィードバックを即座に行う」ことによって生徒の学習の進捗状況を日頃から評価しているとした教員は80%（OECD 平均 79%）、「生徒に対する独自の評価を実施している」と回答した教員は71%（OECD 平均 77%）、「生徒に学習の進捗状況を自己評価させる」ことがしばしばあるとした教員は38%であった（OECD 平均 41%）。

シンガポールでは、教員の84%が、「自分も同僚も新しいアイデアを実施する際、互いに支援し合っている」と回答した。これは、TALIS参加OECD加盟国・地域全体の平均（78%）より高い。

### 4 教員と校長の職能開発<sup>62</sup>

シンガポールでは、教員養成課程中に、教科の内容、指導法、学級指導について教育を受けた教員の割合は89%であり、TALIS参加OECD加盟国・地域の平均（79%）より高い。現在の学校に着任した際に、何らかの公式または非公式な初任者研修を受けたと回答した教師は85%であったのに対して、TALIS参加OECD加盟国・地域全体では42%であった。

シンガポールでは学校管理または校長を対象とした研修プログラム・コースを受けたことがある校長は89%（OECD 平均 54%）、校長就任前に指導力養成研修プログラム・コースを受けた校長は91%（OECD 平均 54%）であった。

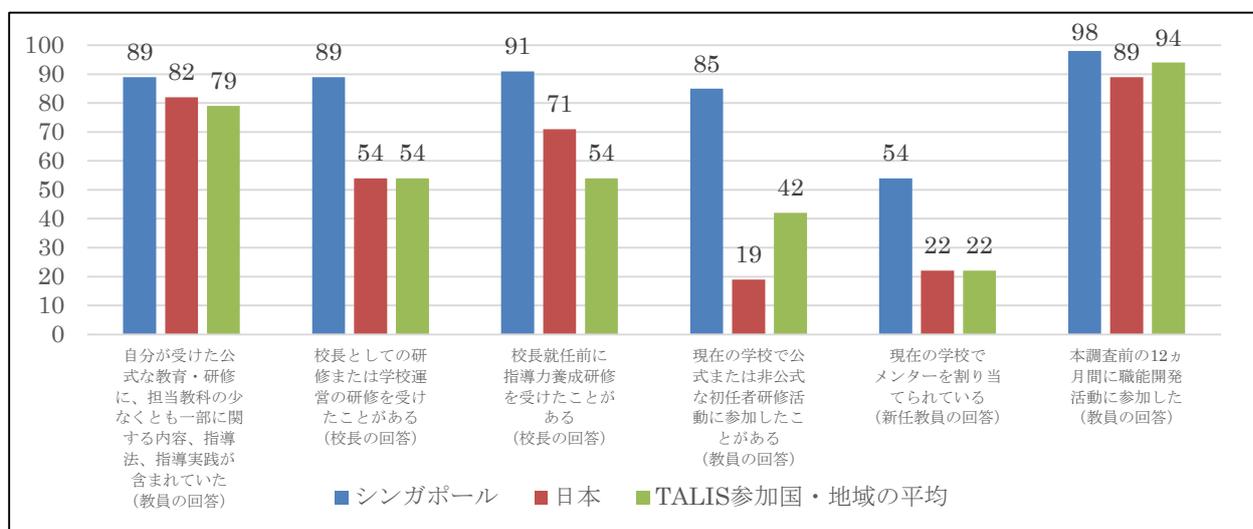
---

<sup>61</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] p.2. (最終検索日: 2024年12月24日)

<sup>62</sup> 同上 p.3.

新任教員（経験年数5年以下）のうちメンターを割り当てられているのはシンガポールでは54%である（OECD平均22%）。



(図4-5) 初期研修と継続研修（前期中等教育課程の教員と校長の回答結果）<sup>63</sup>

シンガポールでは、教員・校長が何らかの現職研修に参加することは一般的であり、教員の98%（OECD平均94%）と校長の100%（OECD平均99%）が本調査の前の1年間に少なくとも1回は職能開発活動に参加したことがあると回答した。

シンガポールの教員は、94%がコースやセミナーへの参加といった研修に、また77%がピアラーニングやネットワーキングによる研修に参加している。

シンガポールの教員は、自分が受けた研修に満足しているようであり、91%が自分の指導方法に良い影響があったと回答した。この割合はTALIS参加OECD加盟国・地域の平均（82%）より高い。

高度なICT（情報通信技術）技能、多文化・多言語環境における指導、特別支援教育の中でシンガポールの教員が特に高い必要性を感じているのは、特別支援教育研修である。

<sup>63</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] pp.3-4. (最終検索日：2024年12月24日) 及び TALIS 2018 participant notes, Japan Volume I ,

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] pp3-4 (最終検索日：2024年12月24日) より著者作成。

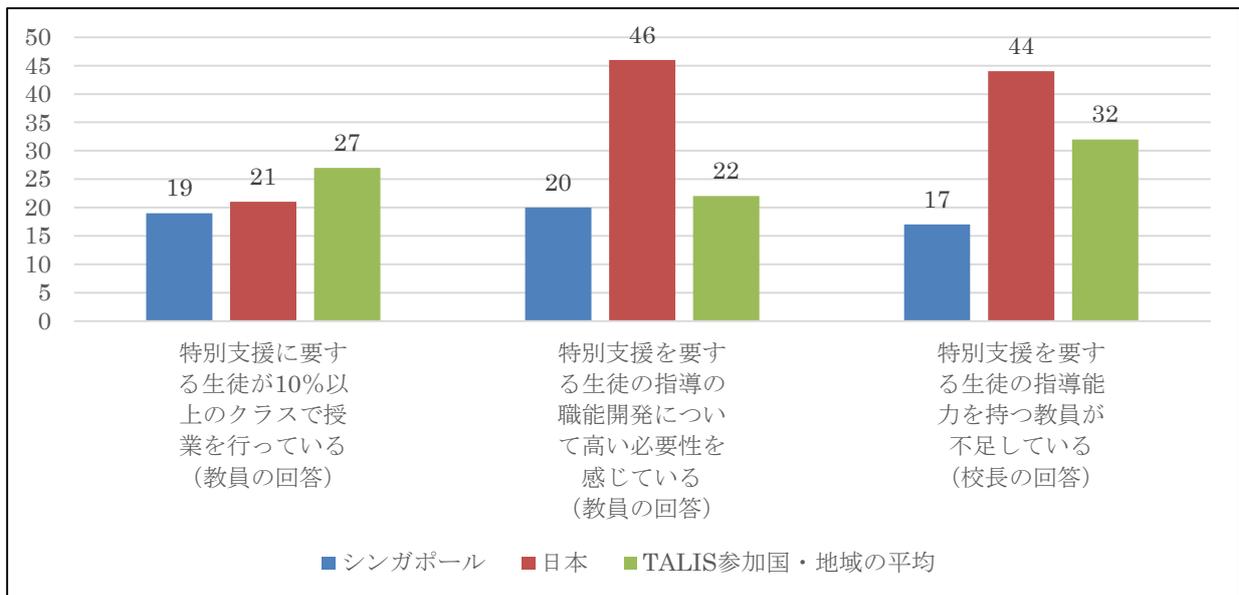
## 5 多様な能力レベルとニーズを持つ生徒の指導<sup>64</sup>

シンガポールの平均で見ると、担当クラスに特別支援を要する生徒（精神的、身体的または情緒的に困難な条件にあることによって、特別な学習を行う必要性が公式に認定されている生徒を指すものとする）が10%以上いると回答した教員の割合は19%であり、これは、TALIS参加OECD加盟国・地域の平均（27%）よりも低い。

シンガポールでは、教員の79%が公式な教員養成課程で、様々な能力レベルの生徒がいる環境で指導を行う研修を受けており、学業終了時に平均して54%がそうした環境で指導する準備ができていると感じている。

また、本調査の前の12カ月間に、特別支援を要する生徒への指導を含む職能開発活動に参加した教員の割合は平均35%であるが、この領域の職能開発は、指導研修の必要性が高いと感じている教員の割合が最も高かった（シンガポール20%、OECD22%）。

平均的に見ると、「特別支援を要する生徒を指導する能力を有する自校教員の不足が、質の高い指導を行う妨げになっている」と回答したシンガポールの校長は17%である（OECD32%）。



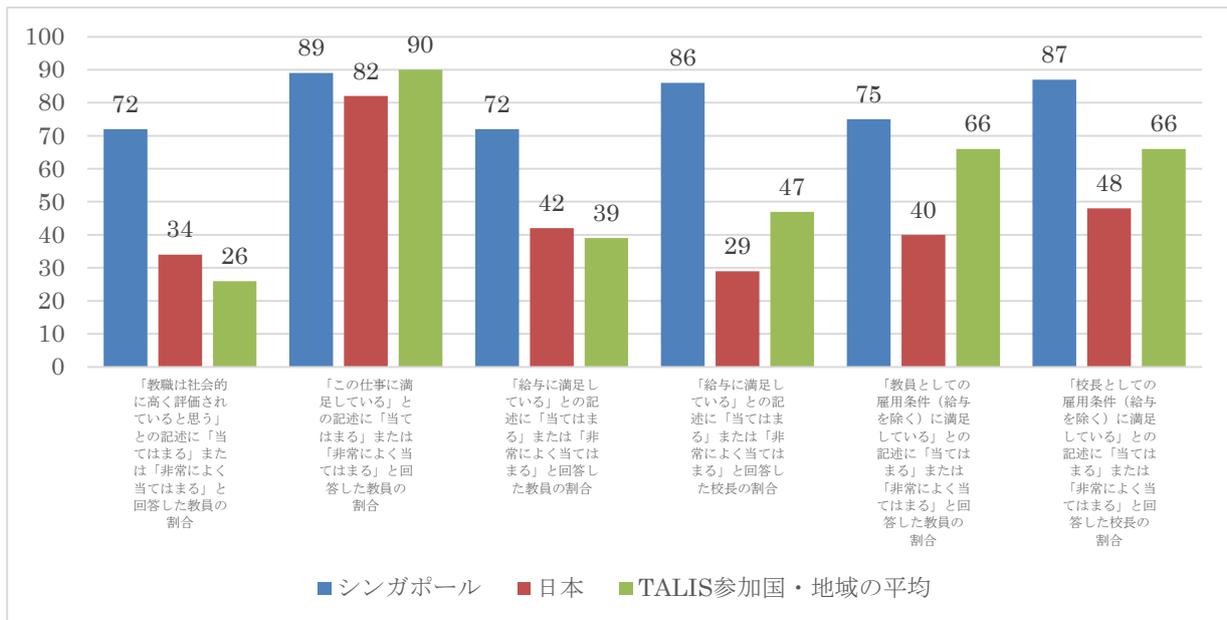
（図4-6）多様な能力レベルとニーズを持つ生徒の指導状況（前期中等教育課程の教員と校長の回答結果）<sup>65</sup>

<sup>64</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] p.4. (最終検索日：2024年12月24日)

<sup>65</sup> 同上及び TALIS 2018 participant notes, Japan Volume I, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] p.4. (最終検索日：2024年12月24日) より著者作成。

## 6 教員と校長が考える教職<sup>66</sup>

TALIS 2018 では、教員が教職の地位をどう捉えているのかを把握するために、「教職は社会的に高く評価されていると思う」という教員への質問項目があった。シンガポールの教員は「当てはまる」または「非常によく当てはまる」と回答した割合が 72% に上り、TALIS 参加国・地域の平均（26%）を上回っている。



(図 4-7) 教職に対する教員・校長の満足度（前期中等教育課程の教員および校長の調査結果）<sup>67</sup>

「教職は社会的に高く評価されていると思う」と回答した教員の割合は 2013 年から 2018 年の間に、比較可能なデータがある TALIS 参加国・地域の半数近くで増加した。シンガポールでは、この期間に 4 ポイント増加している。

仕事に対する満足度について、シンガポールの場合、「全体としてみれば、この仕事に満足している」と回答した教員の割合は 89%（TALIS 参加国・地域の平均は 90%）である。また、雇用条件に満足していると回答したシンガポールの教員は 75%であるのに対し、TALIS 参加国・地域は平均 66%である。

対照的に、給与に満足していると回答した教員がシンガポールでは 72%に上り、

<sup>66</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/v\\_olii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/v_olii/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)] pp.1-2. (最終検索日：2024 年 12 月 24 日)

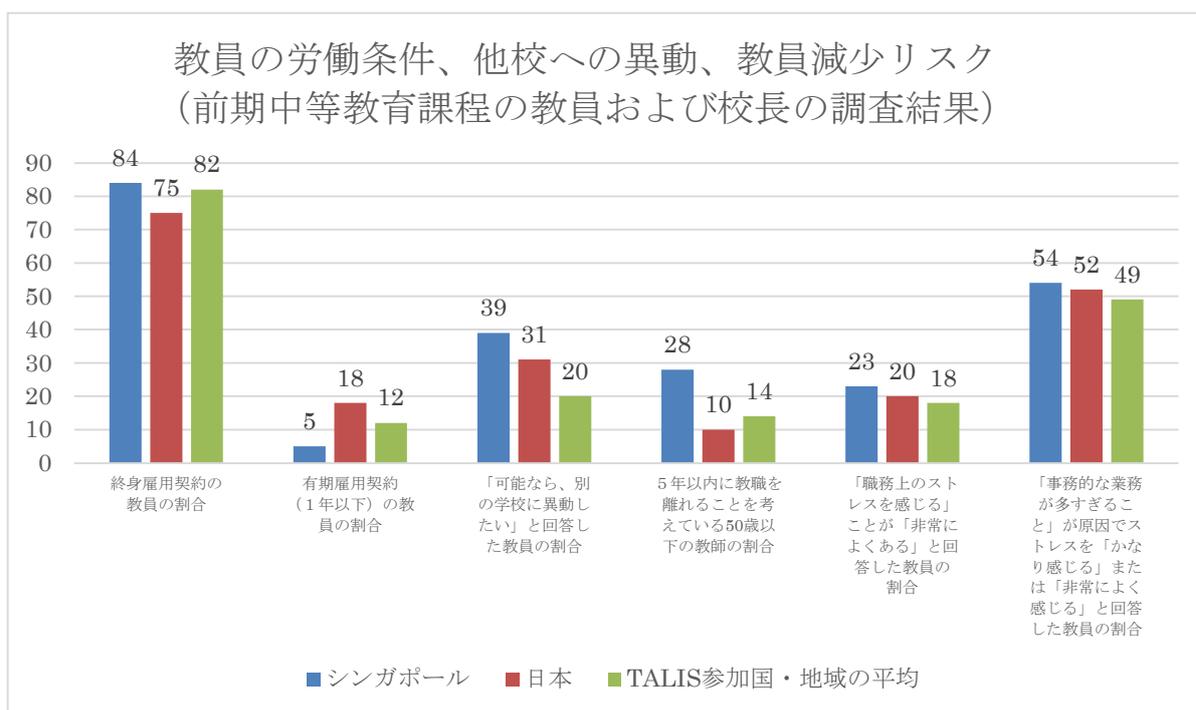
<sup>67</sup> 同上 p.4.及び TALIS 2018 participant notes, Japan Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] p.4. (最終検索日：2024 年 12 月 24 日) より著者作成。

TALIS 参加国・地域の平均（39%）よりも高い。

シンガポールは校長の98%が「全体としてみれば、この仕事に満足している」と回答している（TALIS 参加国・地域の平均は95%）。また、教員の調査結果と同様に校長についても、教員としての雇用条件（給与を除く）に対する満足度89%であり、他の TALIS 参加国・地域の平均66%よりも高い。給与に満足していると回答した校長も86%とあり、TALIS 参加国・地域の平均（47%）を大きく上回っている。

## 7 労働条件、他校への異動、教員減少リスク<sup>68</sup>

シンガポールでは、84%の教員が終身雇用契約で雇用されている（TALIS 参加国・地域の平均は82%）。ここでいう終身雇用計画とは、定年以前に雇用の終了時期の定めがない継続的雇用契約のことである。1年以下の契約で雇用されている教員は、シンガポールでは5%に上り、TALIS 参加国・地域の平均（12%）を下回っている。1年以下の契約で雇用されるシンガポールの教員の割合は、この5年で2ポイント増加している。



（図4-8）教員の労働条件、他校への異動、教員減少リスク（前期中等教育課程の教員の調査結果）<sup>69</sup>

<sup>68</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)] pp.2-3.（最終検索日：2024年12月24日）

<sup>69</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)]

教員の異動に関して、シンガポールでは39%の教員が、「可能なら別の学校に異動したい」と考えている（TALIS 参加国・地域の平均は20%）。

教員の異動に関連するもう一つの要素が教員の離職である。「今後何年間、教員として働き続けたいと思うか」との質問については、シンガポールでは教員の30%が今後5年以内に教職を離職したいと回答しており、TALIS 参加国・地域の平均(25%)よりも高い。また、今後5年以内に教職を離職したいと回答した50歳以下の教員の割合は、シンガポールは28%でTALIS 参加国・地域の平均（14%）を上回っている。

「職務上のストレスを感じる」ことが「非常によくある」と回答する教員の割合はシンガポールでは23%であり、TALIS 参加国・地域の平均（18%）よりも高い。

TALIS 参加国・地域の教員のほぼ半数が、「職務上のストレスを感じる」ことが「かなりある」または「非常によくある」ことの原因として、「事務的な業務が多すぎることを」挙げている。シンガポールの場合、「職務上のストレスを感じる」ことが「かなりある」または「非常によくある」ことの原因の上位3つは「事務的な業務が多すぎることを」や「生徒の学力に対して責任を負っていること」、「採点業務が多すぎることを」である。

TALIS 参加国・地域全体でみると、「職務上のストレスを感じる」ことが「非常によくある」と回答した教員の場合、それ以外の教員よりも、5年以内に教職を離れるつもりであるとの回答が2倍ほど多かった。一方、シンガポールの場合には、「職務上のストレスを感じる」ことが「非常によくある」と回答した教員は、それ以外の教員よりも、5年以内に教職を離れたいとの回答が1.5倍である。

## 8 職務上の自律性、教員間の協力、勉強会の支援<sup>70</sup>

教員の自律性について、「学習課程の内容の決定」に主導権があると回答した教員は、シンガポールが75%であるのに対し、TALIS 参加国・地域の平均は84%に上る。

学校の方針、授業の内容、指導に伴う仕事の多くについて、教員に大きな責任を任せていると回答した校長は、シンガポールでは32%であり、TALIS 参加国・地域の平均（42%）を下回っている。

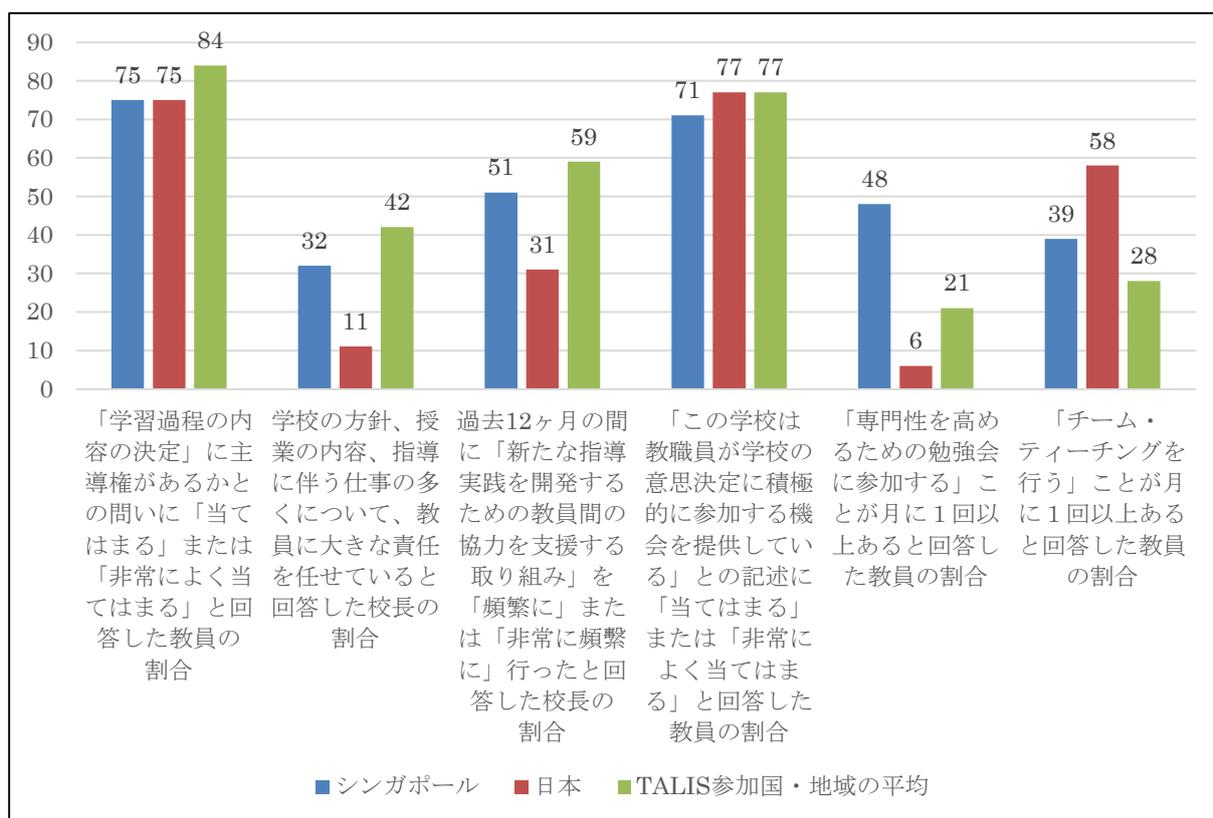
---

[lii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](#)] p.4. (最終検索日：2024年12月24日) 及び TALIS 2018 participant notes, Japan Volume II,

[\[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf\]](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf) p.4. (最終検索日：2024年12月24日) より著者作成。

<sup>70</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II,

[\[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf\]](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/voli/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf) pp.3-4. (最終検索日：2024年12月24日)



(図4-9) 自律性、教員間の協力、勉強会（前期中等教育課程の教員および校長の調査結果）<sup>71</sup>

同僚教員の支援や校長の指導について、シンガポールでは教員の83%が「お互いに助け合う協力的な学校文化がある」と回答している（TALIS 参加国・地域の平均は81%）。また、過去12カ月の間に定期的に「新たな指導実践を開発するための教員間の協力を支援する取り組みを行った」と回答した校長の割合について、シンガポールは51%であり、TALIS 参加国・地域の平均（59%）となっている。「この学校は、教職員が学校的意思決定に積極的に参加する機会を提供している」と回答した教員の割合はシンガポールが71%で、TALIS 参加国・地域の平均（77%）を下回る。TALIS 参加国・地域全体では、この記述が当てはまると回答した教員は、より頻繁に何らかの形での連携に取り組んでいる傾向がある。

<sup>71</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/vol\\_ii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/vol_ii/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)] pp.3-4. (最終検索日：2024年12月24日) 及び TALIS 2018 participant notes, Japan Volume II, [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] pp.3-5. (最終検索日：2024年12月24日) より著者作成。

専門性の高い勉強会について、月に1回以上「専門性を高めるための勉強会に参加する」と回答した教員の割合は、シンガポールは48%であり、TALIS 参加国・地域の平均21%を大きく上回る。また、月に1回以上「チーム・ティーチングを行う」と回答したシンガポールの教員の割合は39%で、TALIS 参加国・地域の平均28%を大きく上回っている。

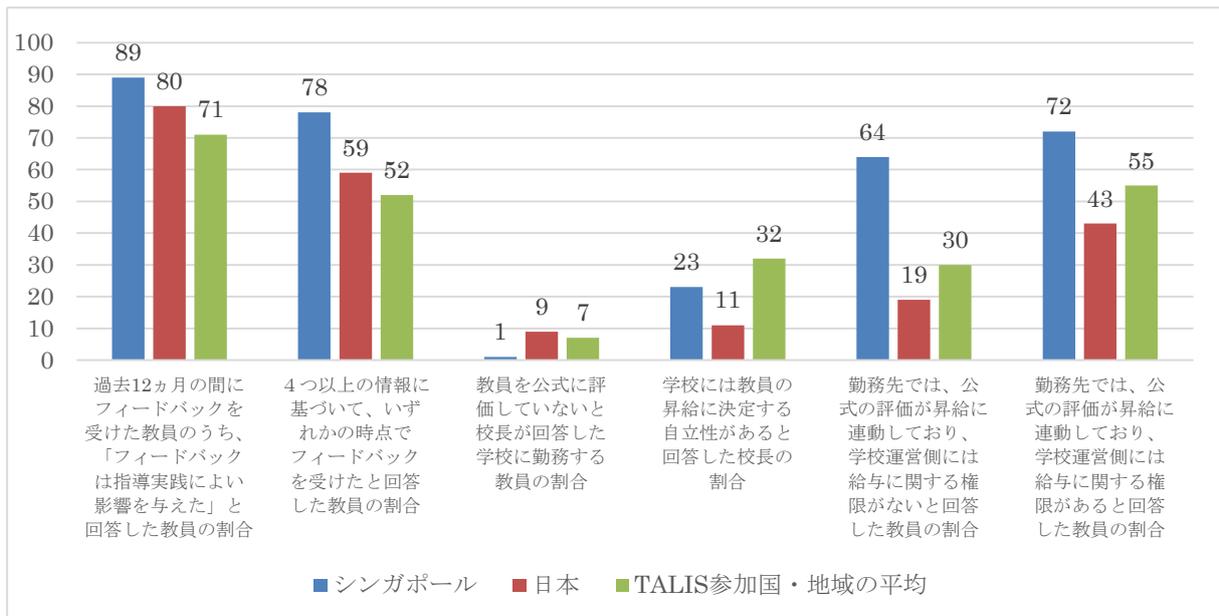
## 9 フィードバックと評価制度の最大限の活用<sup>72</sup>

教員へのフィードバックについて、シンガポールでは、学校でフィードバックを受けたことが全くないと回答した教員はごくわずかである（TALIS 参加国・地域の平均10%）。フィードバックに最もよく用いる情報は、TALIS 参加国・地域では「授業観察」と「学校内と学級内での生徒の成果」、シンガポールの場合には、「授業観察」「学校内と学級内での生徒の成果」「指導している生徒の外部テストの結果」である。

シンガポールでは、過去12カ月の間にフィードバックを受けた教員の89%が、「指導実践によい影響を与えた」と回答している（TALIS 参加国・地域の平均は71%）。シンガポールを含む全ての TALIS 参加国・地域で、複数の情報に基づいてフィードバックを受けたと回答した教員の方が、「フィードバックが指導実践によい影響を与えた」と回答する傾向がある。さらにシンガポールでは78%の教員が、4つ以上の情報に基づいて、いずれかの時点でフィードバックを受けたと回答しており、TALIS 参加国・地域の平均（52%）を上回っている。

---

<sup>72</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II, [\[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf\]](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf) pp.5-6. (最終検索日：2024年12月24日)



(図 4-10) フィードバックと評価（前期中等教育課程の教員および校長の調査結果）<sup>73</sup>

教員の評価に用いる公式の評価制度について、シンガポールでは1%の教員の勤務先で、教員への公的評価を実施していないと校長が回答しており、TALIS 参加国・地域の平均（7%）と比べて低い。

評価後の対応について、シンガポールではすべての教員の勤務先で、評価後に職能開発や研修計画の立案を行うことが一般的であり（TALIS 参加国・地域の平均は90%）、すべての教員にメンターをつけている（TALIS 参加国・地域の平均は71%）。

シンガポールでは過去5年の間に、勤務先において、評価が昇給や賞与につながる場合があると回答した教員が21ポイント減少している。

シンガポールの校長の回答によると、シンガポールでは、昇給や賞与に関して権限がある学校は23%で、OECD 平均（32%）より低い。

シンガポールでは、学校運営側に給与に関する権限がある場合、評価が昇給や賞与に連動していると回答した教員の割合は72%である（TALIS 参加国・地域の平均は55%）。一方、学校運営側に給与に関する権限がない場合は評価が昇給や賞与に連動していると回答した教員の割合は64%である（TALIS 参加国・地域の平均は30%）。

<sup>73</sup> TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II,

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)] pp.5-6.（最終検索日：2024年12月24日）及び TALIS 2018

participant notes, Japan Volume II,

[[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] pp.5-6.（最終検索日：2024年12月24日）より著者作成。

### 第3節 シンガポールの学力調査結果

#### 1 世界各国の学力調査<sup>74</sup>

ここでは、世界各国の学力調査である、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA : Programme for International Student Assessment）と国際数学・理科教育動向調査（TIMSS : Trends in International Mathematics and Science Study）を基に、シンガポールの学力について紹介する。

##### （1）PISA の概要及び調査結果<sup>75</sup>

PISA とは、義務教育修了段階（15 歳）において、これまでに身に付けてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的として、経済協力開発機構（OECD）が3年ごとに実施しているものである。調査内容は、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野の調査及び生徒質問紙、学校質問紙による調査を実施している。対象者は、調査段階で15歳3か月以上16歳2か月以下の学校に通う生徒である。

（表4-11）PISA2022 の調査結果における各国の順位<sup>76</sup>

	1位	2位	3位	4位	5位
読解力	シンガポール	アイルランド	日本	韓国	台湾
数学的リテラシー	シンガポール	マカオ	台湾	香港	日本
科学的リテラシー	シンガポール	日本	マカオ	台湾	韓国

（表4-12）PISA における過去5年間分のシンガポールの成績推移<sup>77</sup>

	2009年	2012年	2015年	2018年	2022年
読解力	5位	3位	1位	2位	1位
数学的リテラシー	2位	2位	1位	2位	1位
科学的リテラシー	4位	3位	1位	2位	1位

<sup>74</sup> 文部科学省「国際学力調査（PISA、TIMSS）」

[[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm)]（最終検索日：2024年12月24日）

<sup>75</sup> 同上

<sup>76</sup> 国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査（PISA2022）のポイント」（2023年12月5日） [[https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01\\_point\\_2.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf)] p.22.（最終検索日：2024年12月24日）より著者作成。

<sup>77</sup> 同上 p.23.より著者作成。

## (2) TIMSS の概要及び調査結果<sup>78</sup>

TIMSS とは、国際教育到達度評価学会（IEA）が初等中等教育段階における児童・生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童・生徒の学習環境条件等の諸要因との関係を分析することを目的として、4年ごとに実施しているものである。調査内容は、算数・数学、理科の調査及び児童・生徒質問紙、教師質問紙、学校質問紙による調査を実施している。対象者は、9歳以上10歳未満の大多数が在籍している隣り合った2学年のうちの上の学年の児童及び13歳以上14歳未満の大多数が在籍している隣り合った2学年のうちの上の学年の生徒である。

(表4-13) TIMSS2019 の調査結果における各国の順位<sup>79</sup>

	1位	2位	3位	4位	5位
小学校 算数	シンガポール	香港	韓国	台湾	日本
小学校 理科	シンガポール	韓国	ロシア	日本	台湾
中学校 数学	シンガポール	台湾	韓国	日本	香港
中学校 理科	シンガポール	台湾	日本	韓国	ロシア

(表4-14) TIMSS における過去5年間分のシンガポールの成績推移<sup>80</sup>

	2003年	2007年	2011年	2015年	2019年
小学校 算数	1位	2位	1位	1位	1位
小学校 理科	1位	1位	2位	1位	1位
中学校 数学	1位	3位	2位	1位	1位
中学校 理科	1位	1位	1位	1位	1位

<sup>78</sup> 文部科学省「国際学力調査（PISA、TIMSS）」

[[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm)]（最終検索日：2024年12月24日）

<sup>79</sup> 国立教育政策研究所「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の結果の推移等」

[<https://www.nier.go.jp/timss/2019/result.pdf>] p.1.（最終検索日：2024年12月24日）より著者作成。

<sup>80</sup> 同上 p.2.より著者作成。

## 終わりに

本稿では、シンガポールの教員を取り巻くさまざまな環境に焦点を当て、教員の仕事時間、職能開発、労働条件及び教員減少などについて、TILIS2018 の調査結果をふまえて紹介してきた。

シンガポールの教員の労働時間は TALIS の参加国内で 7 番目に長いですが、最終章で見たように、PISA や TIMSS の調査結果はいずれも 1 位となっており、質の高い授業効果が得られているといえる。

また、教員や校長の初期研修と継続研修が高い受講率となっており、シンガポールの教員の 91% が、研修が自分の指導方法に良い影響があったと回答しており、教員採用後もさまざまな研修に参加することに意義が見出されているようである。

このほか、第 4 章第 2 節でも述べているが、シンガポールの教員は仕事に対する満足度や雇用条件に対する満足度が高く、また給与に対する満足度は TALIS 参加国・地域の平均（39%）よりも約 2 倍高い水準を示していることも大変興味深い。

シンガポールは人材育成、国民の教育を国家の重要政策に位置づけ、国防費、保健費に次ぐ予算を投入し、国家の舵取り役である有能なリーダーを育成する教育システムを構築している。人材を最大の資源とするシンガポールにおいて、すべての国民の能力を最大限に活用することの意味は大きく、幼少期からの教育を担う教員のとりまく環境は重要である。

シンガポールをはじめとする東南アジアの国々は目覚ましい経済発展を続けており、今後ますます日本にとって人的・経済的に重要な存在となってくる。また、日本においても、初等教育や教員確保、働き方の改善は引き続き重要な課題である。本稿が、シンガポールの教育政策の理解や、日本の各学校や教育機関における教員の働き方等の検討の一助となれば幸いである。

## 参考文献

### 第1章

- ・一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022年3月発行）[\[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf\]](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)（最終検索日：2024年12月12日）
- ・外務省「シンガポール共和国（Republic of Singapore）基礎データ」（2024年6月4日）[\[https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section1\]](https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section1)（最終検索日：2024年12月25日）
- ・在シンガポール日本国大使館「シンガポールの概況」（2018年1月改訂）  
[\[https://www.sg.emb-japan.go.jp/files/%E2%98%85201801%20%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%A6%82%E6%B3%81.pdf\]](https://www.sg.emb-japan.go.jp/files/%E2%98%85201801%20%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%A6%82%E6%B3%81.pdf)（最終検索日：2024年12月12日）
- ・Singapore Department of Statistics, Population Trends 2022,[\[https://www.singstat.gov.sg/-/media/files/publications/population/population2022.ashx\]](https://www.singstat.gov.sg/-/media/files/publications/population/population2022.ashx)（最終検索日：2024年12月12日）

### 第2章

- ・一般財団法人自治体国際化協会「自治体国際化フォーラム402号」（2023年3月25日発行）[\[https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf\\_402/04\\_sp.pdf\]](https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_402/04_sp.pdf)（最終検索日：2024年12月13日）
- ・一般財団法人自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所「シンガポールの政策」（2022年3月発行）[\[https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore\\_2021.pdf\]](https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/singapore_2021.pdf)（最終検索日：2024年12月16日）
- ・文部科学省「海外の大学との大学間交流協定（令和2年度）」  
[\[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shitu/1417820\\_00006.htm\]](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1417820_00006.htm)（最終検索日：2024年12月26日）
- ・Early Childhood Development Agency, PRESCHOOL SEACH,  
[\[https://www.ecda.gov.sg/parents/preschool-search\]](https://www.ecda.gov.sg/parents/preschool-search)（最終検索日：2024年12月26日）
- ・Institute of Technical Education, ITE Colleges, [\[https://www.ite.edu.sg/colleges\]](https://www.ite.edu.sg/colleges)（最終検索日：2024年12月13日）
- ・Ministry of Education SINGAPORE, About MOE Kindergarten (MK),  
[\[https://www.moe.gov.sg/preschool/moe-kindergarten\]](https://www.moe.gov.sg/preschool/moe-kindergarten)（最終検索日：2024年12月26日）
- ・Ministry of Education SINGAPORE, Education Statistics Digest 2024,  
[\[https://www.moe.gov.sg/-/media/files/about-us/education-statistics-digest-2024.pdf\]](https://www.moe.gov.sg/-/media/files/about-us/education-statistics-digest-2024.pdf)（最終検索日：2024年12月13日）
- ・Ministry of Education SINGAPORE, Full Subject-Based Banding (Full SBB),  
[\[https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/full-subject-based-banding/main.html\]](https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/full-subject-based-banding/main.html)

(最終検索日：2024年12月13日)

- Ministry of Education SINGAPORE, How will the current PSLE scoring system benefit your child?, [<https://www.moe.gov.sg/microsites/psle-fsbb/psle/new-psle-scoring-system.html>] (最終検索日：2024年12月13日)
- Ministry of Education SINGAPORE, New Private University of the Arts Singapore – Formed by Alliance Between NAFA and LASALLE – to Open in 2024, [<https://www.moe.gov.sg/news/press-releases/20220830-new-private-university-of-the-arts-singapore-formed-by-alliance-between-nafa-and-lasalle-to-open-in-2024>] (最終検索日：2024年12月16日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Our Mission and Vision, [<https://www.moe.gov.sg/about-us/our-mission-and-vision>] (最終検索日：2024年12月26日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Our organisation structure, [<https://www.moe.gov.sg/about-us/organisation-structure>] (最終検索日：2024年12月26日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Overview of Post-Secondary Education Institutions (PSED), [<https://www.moe.gov.sg/post-secondary/overview>] (最終検索日：2024年12月26日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Subject-based banding for primary school, [<https://www.moe.gov.sg/primary/curriculum/subject-based-banding>] (最終検索日：2024年12月26日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Three MOE Kindergartens Opening in 2026 and 2027, [<https://www.moe.gov.sg/news/press-releases/20220628-three-moe-kindergartens-opening-in-2026-and-2027>] (最終検索日：2024年12月13日)
- MINISTRY OF FINANCE, ANALYSIS OF REVENUE AND EXPENDITURE, [[https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024\\_analysis\\_of\\_revenue\\_and\\_expenditure.pdf](https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024_analysis_of_revenue_and_expenditure.pdf)] (最終検索日：2024年12月25日)
- Monetary Authority of Singapore, MAS Launches Grant Scheme to Encourage Hiring and Training of Polytechnic Talent for the Financial Sector, [<https://www.mas.gov.sg/news/media-releases/2023/grant-scheme-to-encourage-hiring-and-training-of-polytechnic-talent-for-the-financial-sector>] (最終検索日：2024年12月26日)
- United Nations Department of Economic and Social Affairs Statistics, Country Profile Singapore, [<https://unstats.un.org/unsd/snaama/countryprofile>] (最終検索日：2024年12月12日)
- Quacquarelli Symonds, QS World University Rankings 2024: Top global universities, [<https://www.topuniversities.com/world-university-rankings/2024>] (最終検索日：2024年12月26日)

### 第3章

- Early Childhood Development Agency, Requirements for Educator Certification, [<https://www.ecda.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/early->

[childhood-educator/requirements-for-educator-certification-.pdf?sfvrsn=ee9d471b\\_3\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci/postgraduate-diploma)  
(最終検索日：2024年12月18日)

- Ministry of Education SINGAPORE, Diploma in Education (DipEd),  
[\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci/postgraduate-diploma\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci/postgraduate-diploma) (最終検索日：2024年12月20日)
- Ministry of Education SINGAPORE, English Medium or Mother Tongue Language (MTL) Kindergarten Teacher,  
[\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/trained/mk-teacher\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/trained/mk-teacher) (最終検索日：2024年12月18日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Postgraduate Diploma in Education (PGDE),  
[\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci/postgraduate-diploma\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci/postgraduate-diploma) (最終検索日：2024年12月20日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten,  
[\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk) (最終検索日：2024年12月18日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in MOE Kindergarten for untrained applicants, [\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/untrained\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/mk/untrained) (最終検索日：2024年12月18日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in special education schools,  
[\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/sped-teacher?pt=Teacher\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/sped-teacher?pt=Teacher) (最終検索日：2024年12月24日)
- Ministry of Education SINGAPORE, Teaching in Primary and Secondary schools, Junior Colleges and Centralised Institute, [\[https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci\]](https://www.moe.gov.sg/careers/become-teachers/pri-sec-jc-ci) (最終検索日：2024年12月19日)
- NATIONAL INSTITUTE OF EARLY CHILDHOOD DEVELOPMENT, Diploma (Conversion) in Early Childhood Care & Education – Teaching [DECCE-T (Conversion)] [\[https://niec.edu.sg/course/diploma-conversion-in-early-childhood-care-education-teaching-decce-t-conversion/\]](https://niec.edu.sg/course/diploma-conversion-in-early-childhood-care-education-teaching-decce-t-conversion/) (最終検索日：2024年12月19日)

#### 第4章

- 外務省「OECD」[\[https://www.mofa.go.jp/mofaj/comment/faq/keizai/oecd.html\]](https://www.mofa.go.jp/mofaj/comment/faq/keizai/oecd.html)  
(最終検索日：2024年12月26日)
- 経済産業省「OECD（経済協力開発機構）」  
[\[https://www.meti.go.jp/policy/trade\\_policy/oecd/index.html\]](https://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/oecd/index.html) (最終検索日：2024年12月26日)
- 国立教育政策研究所「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の結果の推移等」  
[\[https://www.nier.go.jp/timss/2019/result.pdf\]](https://www.nier.go.jp/timss/2019/result.pdf) (最終検索日：2024年12月24日)
- 国立教育政策研究所「教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018 報告書—学び続ける教員と校長— の要約」  
[\[https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018\\_summary.pdf\]](https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf) (最終検索日：2024年12月24日)

- 国立教育政策研究所「OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 報告書 vol. 2 のポイント」 [<https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/tails2018-vol2.pdf>] (最終検索日：2024年12月24日)
- 国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査 (PISA2022) のポイント」 [[https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01\\_point\\_2.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf)] (最終検索日：2024年12月24日)
- 文部科学省「国際学力調査 (PISA、TIMSS)」 [[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm)] (最終検索日：2024年12月24日)
- 文部科学省「TALIS (OECD 国際教員指導環境調査)」 [[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/data/Others/1349189.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1349189.htm)] (最終検索日：2024年12月24日)
- TALIS 2018 participant notes, Japan Volume I , [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] (最終検索日：2024年12月24日)
- TALIS 2018 participant notes, Japan Volume II , [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_JPN\\_ja.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_JPN_ja.pdf)] (最終検索日：2024年12月24日)
- TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume I , [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018\\_CN\\_SGP.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/TALIS2018_CN_SGP.pdf)] (最終検索日：2024年12月24日)
- TALIS 2018 participant notes, Singapore Volume II , [[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018\\_CN\\_SGP\\_Vol\\_II.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/edu/talis/talis2018participantnotes/volii/TALIS2018_CN_SGP_Vol_II.pdf)] (最終検索日：2024年12月24日)

#### 【執筆】

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 新原 祥子

#### 【監修】

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所 所長 櫻井 泰典  
次長 徳田 博行